

地方独立行政法人天王寺動物園

業務実績評価シート(個票)

令和 5 年度中の業務実績
(令和 6 年度に評価)

【全62項目】

【評価点】

- V : 計画を大幅に上回って実施している
- IV : 計画を上回って実施している
- III : 計画を順調に実施している
- II : 計画を十分実施できていない
- I : 計画を大幅に下回っている

評価シート（個票）

通し番号		1													
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。													
		第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。													
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。													
	年度計画	前年度の交渉進捗を踏まえた上で、コレクション計画に基づき新規希少動物の導入を目指す。													
	評価事例	Ⅲ	・動物導入に向けた準備・交渉の順調な進捗による動物導入の実績												
		Ⅳ・Ⅴ	・新たな動物導入の一般公開（既存獣舎改修も一定の目途）												
D	行動	・令和5年度に改訂したコレクション計画に基づき、動物を導入した。 ・また全国のいくつかの園で保全繁殖に取組んでおり、世界で推定10000羽以下で絶滅危惧種と言われるミゾゴイを導入した。 ◆令和5年度導入実績													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>コレクション計画における分類</th> <th>導入種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S（繁殖・導入優先）</td> <td>ナベヅル（9月・九十九島動植物園より）</td> </tr> <tr> <td>A（繁殖・導入推進）</td> <td>フンボルトペンギン（9月・葛西臨海水族館より） ジャガー（10月・日本平動物園より）</td> </tr> <tr> <td>B（繁殖可・現状維持）</td> <td>チンパンジー（9月・宮崎市フェニックス自然動物園より）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">C（繁殖不可・現状維持）</td> <td>レッサースローロリス（9月・恩賜上野動物園より）</td> </tr> <tr> <td>フサオネズミカンガルー（9月・ひびき動物ワールドより） ホオジロカンムリヅル（5月・ネオパークオキナワより）</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>ヨシガモ（8月・京都市動物園より） ニホンキジ（10月・周南市徳山動物園より） ミゾゴイ（11月・井の頭自然文化園より）</td> </tr> </tbody> </table>			コレクション計画における分類	導入種	S（繁殖・導入優先）	ナベヅル（9月・九十九島動植物園より）	A（繁殖・導入推進）	フンボルトペンギン（9月・葛西臨海水族館より） ジャガー（10月・日本平動物園より）	B（繁殖可・現状維持）	チンパンジー（9月・宮崎市フェニックス自然動物園より）	C（繁殖不可・現状維持）	レッサースローロリス（9月・恩賜上野動物園より）	フサオネズミカンガルー（9月・ひびき動物ワールドより） ホオジロカンムリヅル（5月・ネオパークオキナワより）
コレクション計画における分類	導入種														
S（繁殖・導入優先）	ナベヅル（9月・九十九島動植物園より）														
A（繁殖・導入推進）	フンボルトペンギン（9月・葛西臨海水族館より） ジャガー（10月・日本平動物園より）														
B（繁殖可・現状維持）	チンパンジー（9月・宮崎市フェニックス自然動物園より）														
C（繁殖不可・現状維持）	レッサースローロリス（9月・恩賜上野動物園より）														
	フサオネズミカンガルー（9月・ひびき動物ワールドより） ホオジロカンムリヅル（5月・ネオパークオキナワより）														
その他	ヨシガモ（8月・京都市動物園より） ニホンキジ（10月・周南市徳山動物園より） ミゾゴイ（11月・井の頭自然文化園より）														
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	コレクション計画に基づき複数種の動物を導入したため。											
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり											
	ヒアリング結果	新たに導入した動物種であるミゾゴイは、令和6年4月の一般公開に向け、検疫等の準備を実施したとのこと。その他の動物についても、コレクション計画に基づき動物導入を実施していることから、動物展示の充実に向け計画どおり進捗していると評価できる。													
A	次年度の年度計画	[1] コレクション計画に基づく新規希少動物の導入に向けて国内外他園等と調整を図る。													

評価シート（個票）

通し番号		2																
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。																
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。																
	年度計画	JAZAの個体群管理計画に基づく種別管理等を継続して受嘱するとともに、第23回種保存会議をホストとして開催し、種の保存事業に貢献する。																
	評価事例	Ⅲ	・種別管理の担当や部会員を継続して受嘱 ・種保存会議の開催															
		Ⅳ・Ⅴ	・新たな種別管理、部会員を担当 ・種別管理等の担当をすることで園に何らかのメリットが得られた場合 ・種保存会議を成功裏に開催															
D	行動	・JAZA（公益社団法人日本動物園水族館協会 総裁：秋篠宮皇嗣殿下）の4つの委員会においてのべ10名が種別管理者、専門技術員もしくは部員としての受嘱を継続し、活動に参加した。 ・特にクロサイの専門技術員について、年度途中退職による空席を当園職員で埋め、継続して受嘱することとなった。 ◆受嘱委員会及び受嘱者 ①生物多様性委員会 <table border="0"> <tr> <td>ヨウスコウワニ種別管理者</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>ホッキョクグマ専門技術員</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>クロサイ専門技術員</td> <td>動物診療課職員</td> </tr> <tr> <td>シシオザル専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>マレーグマ専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>ニホンイヌワシ専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> <tr> <td>フランソワルトン専門技術員</td> <td>飼育展示課職員</td> </tr> </table> ②安全対策委員会 感染症対策部部員 飼育展示課職員 ③総務委員会 栄養部部員 飼育展示課職員 ④教育普及委員会 学術研究部部員 飼育展示課職員 ・また、「第23回種保存会議」（10月27日、28日開催）へ向けて、準備調整を着実に進めた結果、成功裏に終えることができた。 ◆種保存会議・・・JAZAが主催する、動物園・水族館の中心的な役割である「保全活動」について議論する、2年に1度の会議。第23回は、国内外の動物園や水族館、関係省庁から209名の出席があった。			ヨウスコウワニ種別管理者	動物診療課職員	ホッキョクグマ専門技術員	動物診療課職員	クロサイ専門技術員	動物診療課職員	シシオザル専門技術員	飼育展示課職員	マレーグマ専門技術員	飼育展示課職員	ニホンイヌワシ専門技術員	飼育展示課職員	フランソワルトン専門技術員	飼育展示課職員
ヨウスコウワニ種別管理者	動物診療課職員																	
ホッキョクグマ専門技術員	動物診療課職員																	
クロサイ専門技術員	動物診療課職員																	
シシオザル専門技術員	飼育展示課職員																	
マレーグマ専門技術員	飼育展示課職員																	
ニホンイヌワシ専門技術員	飼育展示課職員																	
フランソワルトン専門技術員	飼育展示課職員																	
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	種別管理の担当や部会員を継続して受嘱したことに加え、2年に一度全国規模で開催される「第23回種保存会議」を成功裏に終えたため。														
	市の評価	Ⅳ	評価理由	クロサイ専門技術員の後任を改めて法人職員が受嘱するなど、新規動物の導入に欠かせない国内の動物園との信頼構築が見られるため。														
	ヒアリング結果	種別管理等の担当を引き続き受嘱できており、また年度途中退職者についての後任も任されている。令和5年度は種保存会議をホストとして滞りなく開催できた。この会議においては他園館の担当者とのコミュニケーションを図ることができただけでなく、園の信頼向上に繋がっていると考えられることから、計画以上に取組が進捗していると評価できる。																
A	次年度の年度計画	[2] JAZAの個体群管理計画に基づく種別管理担当等と緊密に連携を図り、情報収集を行うことで展示動物の充実に取り組む。																

評価シート（個票）

通し番号		3		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。		
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。		
	年度計画	JAZA、WAZA開催の研究会、地域別会議等に積極的に参画し、得られた情報を共有する。		
	評価事例	Ⅲ	・研究会等への参加・協力の上、得られた情報を園内で共有	
		Ⅳ・Ⅴ	・研究会等で得られた知識により飼育技術に向上が見られた場合	
D	行動	・年間を通じて積極的に研究会等へ参加し、他園館などの情報や飼育管理に係る最新の情報収集に努めた。演題発表後の質疑応答にて有効な助言を受け、飼育技術の向上につながる有益な情報を得た。また、保定や収容など実技として学んだものは今後の飼育管理に活かしていく。 ・研究会等への参加の後、資料等を共有フォルダ内に保存し、動物飼育専門員および獣医師に共有するとともに、日常の飼育・診療業務に活かした。 ・コウノトリ計画推進会議では、今後の動物の異動の方向性が定まった。 ◆研究会等への出席 25件 延べ42人 ◆研究発表 演題6件		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	研究会等への参加・協力の上、得られた情報を園内で共有したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	日頃の動物飼育業務に加え、積極的に研究会等に参加し情報収集に努めていることから、計画どおり進捗していると評価できる。研修会などで収集した有益な情報が飼育技術の向上に繋がるなど、今後の展開に期待する。		
A	次年度の年度計画	[3] JAZA、WAZA開催の研究会、地域別会議等に積極的に参画し、得られた情報を共有することで飼育技術の向上に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		4		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。		
P	中期計画	第1-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。		
	年度計画	昨年度の検証を踏まえイベントを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じ実施内容やイベントに関する指針に反映させる。		
	評価事例	Ⅲ	・ イベントの実施および検証結果の指針への反映	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 検証結果を次期イベントに反映したことによる集客増やアンケートでの評価アップ	
D	行動	・ 新型コロナウイルス感染症の緩和に伴い、企画展やワークショップ関連イベント等の開催数は40件にも及び、令和4年度と比較して増加となった。 ・ 各イベント・企画展実施後はアンケート等で検証を実施した。 ・ アンケートへの記載があった「剥製の種名は英名、学名表記を必須とすべき」、「（アンケート回答と引換えの）どうぶつカードがなかった」という意見については、適宜改善を図っている。 ・ また、新規イベント・シンポジウム「ニホンインシガメのはなし」（2024/2/3）は満席となり、特に高い評価を得た。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	今年度は、新型コロナウイルス感染症の緩和に伴いワークショップ型のイベントを多く実施した。アンケート結果をもとにした改善や、新規イベントで高評価を得たため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度は既存のイベントの継続開催に加え、新規イベントを複数実施している。各イベントの目的についても明確にし、参加者に園の意図が伝わっていることがアンケート結果から確認できており、計画どおり進捗していると評価できる。 今後もアンケート等の検証結果を基に、さらに魅力的・効果的なイベントを企画・実施してほしい。		
A	次年度の年度計画	〔4〕 これまでのイベントの検証結果を踏まえ、今後のイベントのさらなる魅力向上（学習効果・集客力・リピーター増）に繋げる。 また、令和7年1月1日に開園110年を迎えることから、シンボルイヤーとして位置づけ、様々な周年イベントを実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		5		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。		
P	中期計画	第1-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。		
	年度計画	昨年度に実施した近隣商業施設や交通機関等との連携イベント等の検証を踏まえた取り組みを行うとともに、結果を検証し、必要に応じ実施内容や前項指針に反映させる。		
	評価事例	Ⅲ	・近隣商業施設や交通機関等との連携イベントの継続および検証結果の指針への反映	
		Ⅳ・Ⅴ	・新たな連携による集客増やアンケートでの高評価 ・連携事業への参加・利用者数の増	
D	行動	・以下(1)～(7)を実施した。 (1) あべのハルカス展望台・ハルカス美術館との連携割引 5月16日～6月18日 ハルカス展望台・美術館（5.16～6.18）利用者数・率：430人・0.38% (2) てんしば店舗等との連携割引 7月15日～12月24日 てんしば店舗（7.15～12.24）利用者数・率：810人・0.16% (3) いらっしゃいキャンペーン 令和4年度から6月30日まで継続実施した。 4月1日～6月30日 利用者数・率：1,085人・0.31% (4) 大阪メトロ乗車券（OSAKA PiTaPa・エンジョイエコカード）による提示割引 令和4年度から継続実施した。 エンジョイエコカード 利用者数・率：10,126人・1.11% OSAKA PiTaPa 利用者数・率：16,129人・1.71% (5) JR天王寺駅と連携したお知らせコーナー 令和4年度から継続実施した。 (6) 大阪市プレミアム商品券 令和4年度から5月31日まで継続実施した。 利用者数・率：3,991人・1.1% (7) 阪神高速ETC割引 令和4年度から継続実施した。 利用者数・率：438人・0.1% ・毎月、有料入園者数に占める各取り組みの割合を算出し、結果に基づいた課題の洗い出しを行った。 ・さらに、(2)てんしばとの連携割引については利用率を上げるため、園内・てんしば側にポスターを掲示した。 ・また、令和6年度の連携割引について検討した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	近鉄不動産との連携をはじめ、交通機関との連携割引を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	従来からの取組については継続実施し、利用者等の分析を行うなど、計画どおり進捗していると評価できる。引き続き現在の取組の効果検証をし、新たな入園者の獲得に繋げてほしい。		
A	次年度の年度計画	[4] これまでのイベントの検証結果を踏まえ、今後のイベントのさらなる魅力向上（学習効果・集客力・リピーター増）に繋げる。 また、令和7年1月1日に開園110年を迎えることから、シンボルイヤーとして位置づけ、様々な周年イベントを実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		6																														
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。																														
P	中期計画	第1-1-(3) 積極的な情報発信 ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。																														
	年度計画	広報戦略（令和3年度策定）に基づいた情報発信を行うとともに、実績を検証し、必要に応じて有識者の意見を聞くなどして、戦略に反映させる。																														
	評価事例	Ⅲ	・継続した情報発信および実績検証																													
		Ⅳ・Ⅴ	・SNSのフォロワー数の大幅な増 ・HPでのお知らせ、スタッフブログ等、報道発表の発信件数がR3年度以上。 （第1期中期計画期間はR3を基準とする）																													
D	行動	・令和4年度の実績について検証するとともに、四半期ごとに実績を検証し、必要に応じて戦略に反映した。（実績の検証時期：①4～5月（R4実績の検証）、②7月～8月、③10月～11月、④1月～2月） ・①②の検証の結果、X(旧Twitter)やInstagramのフォロワー数の伸びが大きいため、7月に広報戦略の改定を行う中で、イベント情報等の発信を増やす方向で検討した。 なお、4月～6月間の情報発信件数は305件であったが、7月～9月にかけては356件とさらに情報発信件数を増やすことができた。 ・③④の検証の結果、Instagramでのイベント情報の発信の際、動物の情報に比べていいねの数が少ないため、動物の写真を合わせて発信するなど、より見てもらえる工夫を行った。 ・全体としては、閲覧数の少なかった毎日朝の営業・お天気情報を中止としたため、発信件数は減少したものの、上記イベント情報は1投稿に対する「いいね」がこれまでよりも増加（約700件→約1,000件）するなど効果的な発信を行うことができた。 ◆SNS フォロワー数比較表 (人) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>X (旧Twitter)</td> <td>9,613</td> <td>15,468</td> <td>20,531</td> </tr> <tr> <td>Instagram</td> <td>42,307</td> <td>47,190</td> <td>52,800</td> </tr> <tr> <td>YouTube</td> <td>17,002</td> <td>18,951</td> <td>20,784</td> </tr> <tr> <td>Facebook</td> <td>26,453</td> <td>27,266</td> <td>27,395</td> </tr> </tbody> </table> ◆情報発信件数比較表 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>1,481</td> <td>1,774</td> <td>1,348</td> </tr> </tbody> </table>				R3	R4	R5	X (旧Twitter)	9,613	15,468	20,531	Instagram	42,307	47,190	52,800	YouTube	17,002	18,951	20,784	Facebook	26,453	27,266	27,395		R3	R4	R5		1,481	1,774	1,348
	R3	R4	R5																													
X (旧Twitter)	9,613	15,468	20,531																													
Instagram	42,307	47,190	52,800																													
YouTube	17,002	18,951	20,784																													
Facebook	26,453	27,266	27,395																													
	R3	R4	R5																													
	1,481	1,774	1,348																													
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	情報発信を継続し、実績の検証を行ったため。																												
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり																												
	ヒアリング結果	広報戦略に基づき、継続的に情報発信を行いながら、随時検証も実施している。検証結果を基に、発信内容に工夫を行っていることから、計画どおり進捗していると評価できる。 今後も引き続き分析を行い、ニーズに合った情報発信に取り組んでほしい。																														
A	次年度の年度計画	〔6〕番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、HP・SNSの閲覧実績やコメントの内容等を分析し、ニーズに合った情報発信に繋げる。																														

評価シート（個票）

7

通し番号				
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。		
P	中期計画	第1-1-(3) 積極的な情報発信 ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。		
	年度計画	多言語化したホームページを継続して更新を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・更新の継続	
		Ⅳ・Ⅴ	・当初方針以上の多言語化実績	
D	行動	・既存ページの多言語化を完了し、日本語ページの更新時に合わせて多言語化ページの更新も行った。多言語の対象言語としては、英語、中国語、韓国語であり、この3つの言語すべてについて日本語ページの更新に合わせて更新した。 ・日本語ページの更新に合わせて随時多言語化ページの更新を行うとともに、多言語化ページの点検（多言語化ページの更新漏れや、修正の必要なページの有無の確認）を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	更新の継続および点検を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	既存ページの多言語化が完了しており、継続的な更新・点検が行われていることから、計画どおり進捗していると評価できる。今後も引き続きホームページの更新を進め、園の取組を世界に向けて発信してほしい。		
A	次年度の年度計画	〔7〕園の基本情報や調査研究、種の保全等の取り組みを理解しやすくするため、多言語ホームページを充実させる。		

評価シート（個票）

通し番号		8		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	引き続き、ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修、研修効果定着のための取組など、研修効果チェック）を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 方針に基づく研修実施と効果チェック等の確実な実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 来園者の満足度向上 ・ 研修受講対象者の拡大 ・ 効果の定着実績	
D	行動	・ 新規採用者、転任者向けに令和4年度の内容を踏襲して研修を行った。 ・ ホスピタリティについての職員個々の認識を把握するために全職員に対し個人面談を行った。 ・ 個人面談の結果も踏まえ全職員向けの研修内容について検討し、研修計画を立て、外部講師による研修を2月・3月に実施した。 ◆ホスピタリティマインド醸成研修参加者：85名 ※委託業者からも参加		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	職員個々に対する個人面談を実施し、ホスピタリティマインド醸成研修を委託業者からも参加者を募り実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	研修後の職員アンケート結果によると、研修内容に対する評価が「非常に良かった・良かった」が95%であったことを確認した。令和5年度も引き続き方針に基づき研修等を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。 今後も来園者満足度向上に向け、研修効果の定着を目指して取り組んでほしい。		
A	次年度の年度計画	[8] 引き続き、ホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取り組み（研修、研修効果定着のための取り組みなど、研修効果チェック）を体系的に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		9		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	継続して、定期点検を実施し、結果の速やかな周知と対応により、美観保持に努める。		
	評価事例	Ⅲ	・定期点検の継続実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・点検時の指摘件数の減（前年度比）	
D	行動	・巡視で重視するポイントとして、以下の2点を設定し、12月中に巡視点検を行った。 ①獣舎工事の鋼板塀等が設置されるので、建設獣舎の説明や園内案内看板などをどこに設置すればいいか検討する。 ②園内表示の破損などの点検を行う。 ・点検結果を受けて修正箇所の洗い出し及び各課へ報告を行い、各課での対策を依頼した。 ◆北園69件中対策済33件 ◆南園28件中対策済13件 （※未対応のものは、制作発注等が必要なものが多いことから、対応策を検討中であり、令和6年度に実施予定）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	巡視点検を行い、各課に対策を依頼したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	巡視点検を行い、必要な対策を講じたため。
	ヒアリング結果	重視するポイントを定めたうえで巡視点検を実施し、令和5年度も引き続き美観保持のための取組を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[9] 定期点検に加え、職員による日常点検や来園者の声等を踏まえた美観保持に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		10		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	園内掲示物整備アクションプランに基づく園内掲示物の点検及び更新を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・ 園内掲示物の点検及び更新の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 来園者の声等に基づくアクションプランの更なる改良	
D	行動	・ 飼育展示課へアクションプランの内容周知説明を行うとともに、随時園内掲示物を更新した。また、鳥のセカイのサイン類もアクションプランに準じて整備した。 ・ 各課職員へメール等でアクションプランの内容について周知し、運営課職員を対象に説明会を実施した。 ・ 獣舎工事の鋼板塀等が設置されるので、建設獣舎の説明や園内案内看板などをどこに設置すればいいか検討した上で設置し、適宜、掲示物を更新した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	アクションプランの周知を行うとともに、アクションプランに基づいて掲示物を作成し、随時更新したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人内で園内掲示物整備アクションプランの内容周知を行い、令和5年度も引き続き、随時掲示物の更新等を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔10〕「園内掲示物整備アクションプログラム」に基づく園内掲示物の点検及び更新を行うほか、リニューアル獣舎についても統一感のある掲示物を作成する。		

評価シート（個票）

通し番号		11		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	ホッキョクグマ舎の実施設計（令和4年度着手・令和5年度完了）を、ユニバーサルな観覧環境に配慮したものとする。		
	評価事例	Ⅲ	・ホッキョクグマ舎の実施設計における観覧環境への配慮	
		Ⅳ・Ⅴ	・予算の範囲内で、当初計画以上のユニバーサルデザインの採用	
D	行動	・9月末までに、「ユニバーサルな環境の主な概要」の内容を踏まえ、実施設計図面の作成を完了した。 ・10月に法人内で設計説明会を実施した。 ・以降、建築確認申請等に係る関係機関との協議を実施し3月に手続きが完了した。 ※ユニバーサルな観覧環境の主な概要 ・園路中間地点に屋根付きの屋内展示室を配置し、観覧窓に面して滞留ゾーンとまとまった人数が座りながらくつろげる雑壇上のベンチを設置し、通過動線との混在を避けてゆったりと鑑賞できるように配慮する。 ・1/20以下の勾配の観覧通路により無理のない移動ができるよう配慮する。 ・園路は滑りにくく段差のない床仕上とし、メイン園路は、車いす使用者やベビーカーの利用に対応したゆとりある幅員（3m）を確保する。 ・サインデザインは、インバウンド対応のため、文字を多言語表記とする。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ホッキョクグマ舎について観覧環境に配慮した実施設計を実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	関係法令を遵守しつつ、観覧環境に配慮した実施設計を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔11〕 令和5年度に完了した実施設計に基づき、ユニバーサルな観覧環境に配慮した施設整備を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		12	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。	
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。	
	年度計画	継続して、来園者の声を分析し園運営に反映する。（HP・SNS含む。）	
	評価事例	Ⅲ	・継続した来園者の声の分析と園運営への反映
		Ⅳ・Ⅴ	・来園者の満足度向上 ・お客様の声を反映した改善事例がR3年度以上。（第1期中期計画期間はR3を基準とする）
D	行動	・お客様満足度アンケートを実施し、結果の分析を行ったうえ職員や委託業者に周知した。委託業者については、動物園スタッフの一員としての自覚を促すため、お客様の声を提示し、対策を講じるように指導した。 ・ホームページや園内での周知だけでは、閑散期になるとお客様の声が少なくなるため収集数を確認しながら対策を行う必要を加味し、イベントなどで、お客様に「お客様満足度アンケート」に協力を求める、対面でアンケート収集するなど収集数を増やす取り組みを検討し実施した。 ・ホスピタリティマインドを徹底するため、全職員に対してヒアリングを実施した。 ・アンケート結果を毎月職員に周知した。 ◆アンケート収集数 令和3年度 524件（10～3月、87件/月平均） 令和4年度 820件（4～3月、68件/月平均） 令和5年度 920件（4～3月、76件/月平均）	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 できる限り多くお客様の声を収集するため、その月の収集数を勘案しながら、園内でアンケート調査を行い、分析し反映したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も引き続き、来園者の声を分析し、その結果を職員や委託業者に周知できている。また、より幅広く来園者の声を収集するための工夫を行っていることから、計画どおり進捗していると評価できる。	
A	次年度の年度計画	[12] 継続して、来園者の声を分析し園運営の改善に取り組む。（HP・SNSを含む）	

評価シート（個票）

通し番号		13		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-2-(1) 間近で動物を感じる機会の提供 飼育動物の展示、「ごはんタイム・おやつタイム」の実施、餌やり体験や「ふれあい広場」の運営等を通じ、リアルな動物を見る、声を聴く、においを感じる等の生きている証に出会う機会を提供する。		
P	中期計画	第1-2-(1) 間近で動物を感じる機会の提供 ごはんタイム・おやつタイムの実施や動物への餌やり体験等、新たなふれあい広場の運営を通じ、来園者が間近を感じる機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。		
	年度計画	・新ペンギン・アシカ舎では水中での採餌行動観察が可能になるため、おやつ・ごはんタイムに教育的イベントとしての要素を持たせた解説など新たな取り組みを図る。 ・ふれんどしっぷガーデンのイベントについては、来園者の満足度を把握するアンケート調査を継続し、必要に応じ検証に基づいたプログラムの修正を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・新ペンギン・アシカ舎での教育的イベントの実施 ・ふれんどしっぷガーデンでの効果検証	
		Ⅳ・Ⅴ	・効果検証の結果、教育効果の向上が見られた場合	
D	行動	・新ペンギン・アシカ舎（ペンギンパーク&アシカワーフ）については、施設のオープン以降おやつタイム・ごはんタイムの実施方法について、複数回ガイドを施行するなかで、実施時間帯、実施場所を選定し、必要な人員配置、給餌量等も含めて決定した。 ・また、ガイド台本を作成し、環境問題についての知識を深めることのできるプログラムを安定して実施できるようになった。実施方法が安定したため、より知識を深めることのできるプログラムが提供できるように、令和5年12月よりアンケート調査を実施した。結果を飼育担当と共有、来園者のコメントからも環境問題について理解が深まっていることが分かった。 ・ふれんどしっぷガーデンについては、令和4年度に引き続き教育効果を検証し、必要に応じて提供方法等を検討した。また、アンケート調査において参加者満足度が高いことを確認できた。 ・また、より教育的効果の高さをはかるため、令和6年度より社会構想大学院の松本博士と共同で効果測定を実施する計画を立てた。さらに、大阪ECO動物海洋専門学校と協力し、イベント前後の参加者の意識変化をアンケート等にて調査する予定である。 ◆ふれんどしっぷガーデンにおけるアンケート結果 ①「あそびじかん」665名のアンケート結果で 「楽しかった」および「少し楽しかった」という回答が全体の96.2% ②「かんさつじかん」131名のアンケート結果で 「楽しかった」および「少し楽しかった」という回答が全体の100%		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	双方のイベントで教育効果の測定を開始し、教育効果を高めることができたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	新ペンギン・アシカ舎での教育的イベントを実施し、ふれんどしっぷガーデンでの効果検証を行ったため。
	ヒアリング結果	施設内の掲示物やプログラムは、来園者の教育効果を高める内容となっており、両施設で来園者の満足度を測るアンケート調査を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。 今後も効果検証を継続し、来園者に教育効果があるプログラムを実施してほしい。		
A	次年度の年度計画	[13] ペンギンパーク&アシカワーフの「おやつ・ごはんタイム」について、より環境問題についての理解を深める内容とするため、アンケートの分析結果に基づいた評価を実施し、プログラムの改善を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		14																															
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。																															
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。																															
	年度計画	教育普及アクションプログラム（令和4年度版）に基づいたメニューを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じて他メニュー、プログラムに反映する。																															
	評価事例	Ⅲ	・教育普及アクションプログラムに基づくメニューの実施および結果検証																														
		Ⅳ・Ⅴ	・教育アクションプログラムに基づく取組みによる来園者の行動変容の実績																														
D	行動	・R5教育普及アクションプログラムに基づき、各種メニューを実施した。 ・行動変容については、動物園ファンクラブのポスター掲示（寄附）やアンケートに環境保全に対する行動内容の項目を設け検証した。令和5年12月よりディスカバー・プログラム利用者アンケートを紙面からモバイルアンケートに変更し、データ集約・分析の効率化を図り、3月末までに29件の回答が寄せられた。「生き物が暮らす環境を守っていくために、身近にできることは何かありますか」という設問には、近くの浜辺でのごみ拾い、ごみの削減・分別・再利用など生活に密着した身近な回答が得られたため、環境保全を訴えるプログラム内容は継続する。 ・出張レクチャーに出向く際には、動物・動物園の魅力伝えるために広報誌「トゥギャザー」を持参し、配布した。 ◆令和5年度プログラム実施件数 <table border="0"> <tr> <td colspan="2">(1) ズー・スクール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・講話・ガイドウォーク</td> <td>79件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・職場紹介</td> <td>12件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・飼育体験</td> <td>11件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・オンライン講話</td> <td>2件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・貸出キット・標本貸出し</td> <td>32件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・出張レクチャー（市内）</td> <td>39件</td> <td rowspan="2">※うち大阪信用金庫 41件</td> </tr> <tr> <td>（市外）</td> <td>35件</td> </tr> <tr> <td>(2) 「園長におまかせ！」講話</td> <td>6件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3) どうぶつとおき話</td> <td>24件</td> <td></td> </tr> </table>			(1) ズー・スクール			・講話・ガイドウォーク	79件		・職場紹介	12件		・飼育体験	11件		・オンライン講話	2件		・貸出キット・標本貸出し	32件		・出張レクチャー（市内）	39件	※うち大阪信用金庫 41件	（市外）	35件	(2) 「園長におまかせ！」講話	6件		(3) どうぶつとおき話	24件	
(1) ズー・スクール																																	
・講話・ガイドウォーク	79件																																
・職場紹介	12件																																
・飼育体験	11件																																
・オンライン講話	2件																																
・貸出キット・標本貸出し	32件																																
・出張レクチャー（市内）	39件	※うち大阪信用金庫 41件																															
（市外）	35件																																
(2) 「園長におまかせ！」講話	6件																																
(3) どうぶつとおき話	24件																																
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	教育普及アクションプログラムに基づいたメニューを年度を通して実施したため。																													
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに																													
	ヒアリング結果	令和4年度実績の効果検証を踏まえ、令和5年度もメニューを継続的に実施している。また、利用者アンケートにおいて、園がプログラムを通して伝えなかった内容と合致した回答が多く寄せられていることから、計画どおり進捗していると評価できる。今後もメニューやアンケート調査を実施し、効果検証を継続してほしい。																															
A	次年度の年度計画	[14] 「教育普及アクションプラン」に基づいたメニューを継続実施し、その実施アンケート結果に基づいてメニューを改善する。																															

評価シート（個票）

通し番号		15		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。		
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。		
	年度計画	新たなボランティア制度に基づくボランティア活動の充実を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・新たなボランティア制度の運用	
		Ⅳ・Ⅴ	・ボランティア参加者の増加	
D	行動	・7月にボランティア育成講習会を実施し、ホームページの掲載箇所を増やすなど、更なる会員増に努めた。 ・8月のナイトズー関連企画にて、2日間、のべ6名に活動いただいた。なお、8月末時点での会員数は4名、9月以降の申込者は新たに3名あった。 ・初回の活動後の意見として、「活動内容の連絡をもう少し早くしてほしい。」、「ボランティアとわかるようにジャンパーなどがあれば良い。」という意見があり、「連絡を早めにする」、「ボランティア用のビブスを準備する」等対策を講じ、改善した。 ・天王寺動物園ボランティアクラブ1915のメンバーに10月に行われるTENZO0小学生チャレンジに参加いただいた。以降のイベントについても活動いただけるようにしていくと共に、ボランティア募集ポスターの作成・掲示などを行い会員数増につながる対策を講じた。 ・ボランティアとしてモチベーションを保てるように、ボランティアとして活動しながら動物園の使命である環境教育、動物福祉といった観点が学べるイベントを実施した。 ◆令和5年度活動実績 イベント活動：15回 ボランティア育成講座：3回 会員数：14名（令和6年4月1日時点）、令和6年度研修受講予定者2名		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	最大募集人数30名に近づけるため、ホームページから募集案内まで簡単に入っていけるように工夫し、ボランティアがモチベーションを保てるようなイベントを検討したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和4年度末に会員募集を開始し、工夫しながら活動を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。 今後も会員の方が積極的に活動に参加できるよう、検討を重ねながら継続的に実施してほしい。		
A	次年度の年度計画	〔15〕「天王寺動物園ボランティアクラブ1915」の活動機会を増やすほか、NPO法人や大学等と連携したイベントを実施することで来園者の学習機会を増やす。		

評価シート（個票）

通し番号		16		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む。		
P	中期計画	第1-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。 取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。		
	年度計画	令和4年度に共有したヒヤリハット事例をもとに飼育連絡会議などの場を利用し、継続的な安全教育を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ヒヤリハットの定期的な事例共有及びマニュアルの定期的な検証	
		Ⅳ・Ⅴ	・新たな安全教育、安全対策の実施	
D	行動	・定期検証を二度実施した。検証の結果、マニュアルとの齟齬は確認されなかったが、獣舎に掲示しているチェックリストに破損や汚損が認められたため、ラミネート加工した新しいものと交換した。 ◆交換した設置物の状況 キリン舎：外出入口扉に設置していた為、雨や日差しに晒され滲んでいた。 ホッキョクグマ舎：ホッキョクグマ舎は湿気が多いのとエアコンの関係で結露により字が滲んでいた。 チンパンジー舎：セカンドキャッチに設置していたが、エサの搬入等や日常業務で摩擦し劣化していた。 サル・ヒヒ舎：獣舎のセカンドキャッチに設置していたが、日常業務で摩擦し劣化していた。 ・令和4年度に発生した他園館の事故を受け、特定動物の獣舎について、飼育管理通路への監視カメラ設置など、安全対策を講じるための予算を計上した。 ・飼育管理マニュアルの検証を特定動物を中心に行ってきたが、動物の逸走事故があったことから、飼育管理マニュアルの改めての周知徹底および見直しを実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ヒヤリハット事例をもとに継続的な安全教育を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年2回の定期検証を実施しており、逸走事故や他園館の事故を踏まえて、飼育管理マニュアルの再周知や見直し等を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔16〕令和5年度に起きた動物の逸走事故を踏まえ、獣舎整備の際の確認を徹底するとともに、既存獣舎についても定期的に施設チェックを行う。また、事故の風化を防ぐため、継続的な安全教育を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		17		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む。		
P	中期計画	第1-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。 取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。		
	年度計画	環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングに関する方針（令和3年度策定）に基づき、取組み中の種について継続実施するとともに、効果を検証し、実施種数を増やすとともに、取組内容の改善を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・取組み種の継続実施および拡充（R5目標＝ハズバンダリートレーニング：37種、エンリッチ：57種）とその効果検証	
		Ⅳ・Ⅴ	・目標取組数以上に取組みが進捗 ・安全面などの取組内容の質的向上	
D	行動	・ハズバンダリートレーニングの実施状況は35種から37種に2種増加した。特筆すべきトレーニングの実施内容は以下のとおり。 ①シロフクロウみ（体重測定） 体重計の上に止まり木を置いて、そこに掴まらせることで体重測定が可能になった。 ・環境エンリッチメントの実施状況は54種から57種へ3種増加した。特筆すべき環境エンリッチメントの実施内容は以下のとおり。 ①キバタン（枝葉の投入） 園内でとった枝葉を展示場内に設置。齧ることで嘴が摩耗し、伸びすぎないようにすることで、齧る行動のバリエーションが増加した。 ②ホオジロカンムリヅル（止まり木の設置） 同種はツル類の中でも珍しく枝に止まる習性があるため、ツル舎展示場内に止まり木を2か所設置。2か所とも動物が使用している。 ③カヤネズミ（稲わらの設置） 同種はカヤの上に球状巣を作る習性があるため、展示場に束にした稲わらを設置。巣を作り、中で休んでいる姿を確認している。 ④フサオマキザル（フィーダー設置） 学生との共同制作のフィーダーを屋外放飼場に設置。実際に動物が使用している。（10/29で終了）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	取組み種の継続実施および拡充とその効果検証を行ったため。（評価事例のとおりに）
	市の評価	Ⅳ	評価理由	計画どおり実施種数の増加が来ている上、独法化以降、継続して実施及び拡充できており、園全体の技術が向上していると判断できるため。
	ヒアリング結果	方針に基づいて継続的に実施し、取組種数も拡充している。また、年度当初に担当者が変わった種についても継続的に実施できており、個々の職員だけでなく園全体の技術が向上していると考えられることから、計画以上に取組が進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[17]「環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニング取組み方針」で定めた取組み種の進捗：トレーニング92.5%について100%を目指す。エンリッチメントについては100%となっているため、質の向上を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		18		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	昨年度作成した新動物病院計画の与条件整理表をブラッシュアップし、令和6年度基本計画発注のための準備を整える。		
	評価事例	Ⅲ	・与条件整理表のブラッシュアップ	
		Ⅳ・Ⅴ	・与条件整理表に基づく基本計画の策定	
D	行動	・他園館の病院をはじめ医療施設を見学し情報収集に努めた。 ・視察の観点としては使い勝手に力点を置き、空調（セントラル方式ではなく個別空調が望ましい）、通路幅の目安、検疫用区切り扉の設置、排水管の勾配、検疫室と診療室の位置関係や高低差（検疫室の排水が診療室に流れないように）、照明スイッチの配置、解剖室の構造（埋め込み式体重計の有用性）、処置室の電源の配置（床上に配線が這わないような電源プラグ位置）についての知見を得るなど、与条件整理表のブラッシュアップのための情報収集を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	与条件整理表のブラッシュアップのための情報収集等を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	他の園館等からの情報収集を通じて、令和4年度に作成した与条件整理表のブラッシュアップに取り組み、基本計画策定に向けて進展していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔18〕新病院・研究棟整備の基本構想（令和7年度策定予定の基本計画のベースとなるもの）を、引き続き関係部署からなるPTにて協議し、策定する。		

評価シート（個票）

通し番号		19		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ・構造・設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ・構造・設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	第1期リニューアル整備事業の計画に応じた設計及び整備を着実に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・計画どおりの進捗（整備費増額・工期延長などの未然防止）	
		Ⅳ・Ⅴ	・予算増額を伴わないスペックの向上	
D	行動	・鳥のセカイは、10月に完成し11月にオープンした。 ・仮チンパンジー舎は、8月に部分使用を開始したが、使用開始時点で隙間からチンパンジーが逸走する可能性について予見できず、10月に逸走事故が発生した。逸走防止対策を完了し12月にオープンした。 ・アジアの森（改修）も完成した。 ・アジアの森（拡張）、アフリカの森、日本の里（新築）、新猛禽舎（新築）、夜行性動物舎、ホッキョクグマ舎については、設計施工業者との設計定例会議への参加等を通じて、設計内容を把握するとともに、概算工事費や工程等に問題がないか等を確認し、適宜指示、情報共有、各種調整を図った。 ・樹上の森（新築）、休憩エリア（新築）、日本の里（コウノトリ舎改修）、猛禽舎（改修）については、基本設計まで完了した。		
C	法人の自己評価	Ⅱ	評価理由	新しく整備した仮チンパンジー舎において逸走事故を発生させたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	第1期リニューアル整備事業が計画どおり進捗しているため。
	ヒアリング結果	施工業者から法人への引き渡し後の新獣舎において逸走事故を発生させたが、設計・施工については第1期リニューアル整備事業を計画に基づいて進めていることから、計画どおり進捗していると評価できる。 動物福祉に配慮した飼育環境を確保できるよう、引き続きコスト管理や進捗管理を意識して、事業を進めてほしい。		
A	次年度の年度計画	〔19〕第一期リニューアル整備事業に関して令和6年度当初の計画工程に対し、年度末の年度進捗率が100%となるよう整備を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		20		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	維持管理計画や施設管理点検に基づく補修・点検を着実に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・補修・点検の着実な実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・計画的な補修等による緊急修繕件数の減少（前年度比）	
D	行動	・施設管理点検に基づく補修・点検について、軽微な故障箇所については、各担当との確に調整を行い、包括管理事業者による改善を適時に実施した。重大な故障箇所の確認はなかった。 ◆令和5年度修繕件数：73件（内、緊急修繕12件） ※令和4年度修繕件数：58件（内、緊急修繕20件） ・樹木の維持管理については、包括管理事業者の業務範囲も含め、検討した。 ・令和5年12月8日に発生した停電 ① 絶縁不良が生じた原因 ・園内に敷設している高圧電気ケーブルの突発的な絶縁不良による地絡故障（漏電）が発生したことによる。 ② 点検の状況 ・令和5年11月6日に実施した年次点検では、地絡故障（漏電）につながる絶縁不良に関する点検項目は合格しており、特段の異常は無く、今回の事故を予見できる状況ではなかった。 ③ 更新年数の目安 ・当該高圧電気ケーブルは1998年製であり、25年経過したもの。 ・（一社）日本電線工業会において、水の影響がある敷設状況の場合は、更新推奨年数を15年と示されているが、大阪市都市整備局発行の「施設カルテ整備・運用マニュアル」においては、一般的な更新年数の目安として30年が示されており、その更新年数内に発生した事故である。 ・令和6年3月23日に発生した電話不通 ・NTT西日本の機器の故障によるものであった。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	維持管理計画および施設管理点検に基づく補修・点検を着実に実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	維持管理計画および施設管理点検に基づき、施設の補修・点検を継続的に実施している。また、停電や電話不通のような予見できない事故についても、迅速に対応している。以上のことから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔20〕維持管理計画に基づくとともに、動物福祉の観点にも配慮し必要な小規模改修を計画的に実施する。		

評価シート（個票）

21

通し番号																						
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。																				
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。																				
	年度計画	動物福祉の観点から策定された「小規模改修計画」に基づき、改修を実施する。																				
	評価事例	Ⅲ	・計画に基づく改修の実施																			
		Ⅳ・Ⅴ	・予算増額を伴わない計画以上の改修の進捗																			
D	行動	・施設課および契約事業者と協議、確認しつつ実施した。 ◆小規模改修計画に基づく改修実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>修繕箇所</th> <th>修理内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥の楽園</td> <td>入口棟内</td> <td>揭示板裏板腐食、剥製下板腐食</td> </tr> <tr> <td>サル舎</td> <td>マンドリル寝室扉</td> <td>ネジゆるみ、扉改修</td> </tr> <tr> <td>マングース舎</td> <td>出入口扉</td> <td>扉カンヌキ不具合</td> </tr> <tr> <td>ジャガー舎</td> <td>寝室シャッター及び間仕切りシャッター</td> <td>操作がかなり重い</td> </tr> <tr> <td>猛禽舎</td> <td>屋根の腐食</td> <td>屋根の交換及び明かり取り</td> </tr> </tbody> </table>			施設名	修繕箇所	修理内容	鳥の楽園	入口棟内	揭示板裏板腐食、剥製下板腐食	サル舎	マンドリル寝室扉	ネジゆるみ、扉改修	マングース舎	出入口扉	扉カンヌキ不具合	ジャガー舎	寝室シャッター及び間仕切りシャッター	操作がかなり重い	猛禽舎	屋根の腐食	屋根の交換及び明かり取り
		施設名	修繕箇所	修理内容																		
鳥の楽園	入口棟内	揭示板裏板腐食、剥製下板腐食																				
サル舎	マンドリル寝室扉	ネジゆるみ、扉改修																				
マングース舎	出入口扉	扉カンヌキ不具合																				
ジャガー舎	寝室シャッター及び間仕切りシャッター	操作がかなり重い																				
猛禽舎	屋根の腐食	屋根の交換及び明かり取り																				
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	計画に基づく改修を実施したため。																		
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり																		
	ヒアリング結果	令和5年度も引き続き、小規模改修計画に基づいて優先順位を付けつつ、着実に実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。																				
A	次年度の年度計画	[20] 維持管理計画に基づくとともに、動物福祉の観点にも配慮し必要な小規模改修を計画的に実施する。																				

評価シート（個票）

通し番号		22		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出し・借入等に引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	繁殖推進種ごとの繁殖に向けたチェックポイントの項目を継続実施するとともに、必要に応じてチェックポイントの見直しを継続する。		
	評価事例	Ⅲ	・チェックポイント項目の継続実施およびチェックポイントの見直し実績	
		Ⅳ・Ⅴ	・繁殖実績	
D	行動	・新コレクション計画に合わせて、新規繁殖推進種について検討した。ソデグロヅルを新規繁殖推進種とし、ハマキムシに被害されたモッコクの樹勢回復および堆肥を活用した土壌改良を行い、展示場の改修を進めた。 ・チェックポイントについては継続実施、また並行してチェックポイント項目の妥当性の検証、変更を行った。 ・フラミンゴにおいて環境整備を行った結果、ベニイロフラミンゴとチリーフラミンゴで9年ぶりに雛が孵化し育成している。 ・また、チェックシートには含まれていないが、国内2園目となるヨウスコウワニの繁殖に成功した。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	チェックシートに基づく環境整備により、フラミンゴ（チリー・ベニイロ）の繁殖という結果が得られたため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	繁殖推進種の見直しを行い、繁殖に向けたチェックポイント項目について検証しながら継続的に実施している。さらに、対象種であるフラミンゴの繁殖に成功していることから、計画以上に取組が進捗していると評価できる。また、対象種ではないヨウスコウワニの繁殖にも成功しており、今後の取組に期待したい。		
A	次年度の年度計画	〔21〕繁殖推進種ごとの繁殖に向けたチェックポイントの項目を継続実施するとともに、必要に応じてチェックポイントの見直しを継続する。		

評価シート（個票）

通し番号		23		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	前年度に成功したオグロヅルの採精手技の再現性確保及び継続的な採取に取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・オグロヅルの繁殖へ向け継続した取り組み	
		Ⅳ・Ⅴ	・授精の成功	
D	行動	・手技の再現性を向上させるために月に1～2回採精練習を行った結果、繁殖期に2回採精に成功した。性状確認もできている。 ・これらの実績をもとに、メスのみを飼育している平川動物園への精液提供および人工受精に向けた搬送計画を立案し、輸送容器および梱包方法の検討、平川動物園との実務調整を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	定期的に採精練習を行い再現性向上に努めた上、次年度の人工受精に向けた調整を進めたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も引き続き、希少種であるオグロヅルの繁殖を目指し、採精に成功している。さらに、他園と具体的な調整を進めるなど、人工受精の成功に向けた取組を積極的に行っていることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔22〕 オグロヅルの継続的な精液採取や他園館との連携によるメスへの精液注入など人工繁殖に向けて取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		24		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	・ニホンイシガメについては、環境整備ができたことから、繁殖に取り組むほか、保全につながる啓発活動として、企画展を実施する。 ・また新たな取組として、オオサンショウウオの保全につながる取組について計画を策定する。		
	評価事例	Ⅲ	・ニホンイシガメの繁殖及び企画展の実施 ・オオサンショウウオの保全計画策定	
		Ⅳ・Ⅴ	・ニホンイシガメの保全活動の取組み ・新たな種の保全活動の啓発活動 ・保全活動に向けた新たな取組実績 ・保全（繁殖）につながる活動	
D	行動	・ニホンイシガメについては、園内で飼育しているニホンイシガメの産地分けを行い、飼育方針について協議した。それにより、系統ごとに管理するために産地ごとに飼育場所（爬虫類生態館内日本の自然、バックヤード、ツル舎、ゾウ舎）を分け、管理の方法を含め大阪府産の繁殖計画を立て、繁殖用のペアを3組選定し、第1期リニューアル「日本の里エリア」完成までは収容スペースに限りがあるため、計画的な繁殖を目指すこととした。（令和5年度のニホンイシガメの繁殖実績は3匹） ・また、「和亀保護の会」および「一般財団法人環境事業協会」との共催により、6月にアカミミガメとアメリカザリガニが条件付き特定外来生物になって規制されたことともリンクさせた、シンポジウム、企画展等を計画し開催した。シンポジウム「ニホンイシガメのおはなし」は定員以上の参加があった。 ・オオサンショウウオについては、「第18回日本オオサンショウウオの会・古座川大会」に参加し、オオサンショウウオ飼育園館との関係構築や、保全につながる活動内容の情報収集を行った。大阪府内のオオサンショウウオ調査を見据えて、域内保全につながる定期的な調査への同行計画を立案した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ニホンイシガメについては啓発活動として企画展を実施し、オオサンショウウオについては保全活動に向けて、情報収集と他園との関係構築を行い、次年度へつながる計画の策定を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	ニホンイシガメのシンポジウムでは、立ち見が出るほど多くの参加があり、園の思いが参加者に伝わっていることがアンケートから確認できていることが分かった。また、令和5年度もニホンイシガメおよびオオサンショウウオの保全に関する取組を継続的に実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[23] ・ニホンイシガメについて保全につながる啓発活動を行い来園者の理解を深める。 ・オオサンショウウオの保全につながる企画を立案し実施する。また、生息地の調査に同行し、保全の知識や調査手法の獲得に努める。		

評価シート（個票）

通し番号		25		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。		
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。		
	年度計画	「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、継続的に調査研究へ取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・調査研究の継続	
		Ⅳ・Ⅴ	・論文の執筆	
D	行動	・各飼育班で研究テーマを決定し、着手した。途中でテーマ変更の必要が生じた班については再度テーマを設定した。 ◆各班の研究テーマ 1班：「ふ卵器の温湿度条件とふ化率・生育率の関係」 「エサ内容とエンジェルウィング発生の関係」 2班：「エミュー嗜好性調査」 3班：「ハクビシンの空間の広さの変化と行動量の比較」 「ホッキョクグマの成長に伴うプール利用時間の変化について」 4班：「チリーフラミンゴとベニイロフラミンゴにおける夜間親子別居の取り組みについて」 「ヨウスコウワニの継続した繁殖と屋外飼育個体による繁殖」 5班：「曖昧化しているキリンの発情周期把握のための、夜間行動調査」 6班：「ネコ科動物における行動レパートリー増加」 ・このうち6班の研究についてはデータが揃ったため、近畿ブロック動物園技術者研究会において発表した。その他の班についても研究を進めた。 ・また、飼育展示課企画班職員と協力して進めた研究については、『動物園水族館雑誌 第65巻第2号（2023年9月）』（査読付き）に掲載された。 【論文名】ふれあい施設の移転に伴う、動物福祉水準の維持・向上を徹底した方針への転換 【著者】井出貴彦、土谷正道、西村慶太、下村幸治、大西一馬、大野ひかり、前田菜穂		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	投稿した論文が『動物園水族館雑誌 第65巻第2号（2023年9月）』に事例報告として掲載されたため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	日常の飼育・診療業務と並行して、各飼育班が研究テーマを決定し、全体のスケジュールを調整しながら研究を進めている。さらに、データが揃った研究については研究会で発表するだけでなく、投稿論文を執筆し、査読付きの論文雑誌に掲載されている。以上のことから、計画以上に取組が進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[24] 「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		26		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。		
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。		
	年度計画	連携協定に基づき大学・機関との取組を進める。		
	評価事例	Ⅲ	・連携協定に基づく取組の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・連携協定による具体的な成果 ・新たな大学、研究機関等との連携協定の締結	
D	行動	・研究テーマ及び内容を検討するとともに、年度を跨いで継続している研究については継続的に実施し、進捗を確認した。 ・協定に基づくものは5つ（帝京科学大学、岡山理科大、岐阜大学、大阪公立大、北海道大学）、他に公的機関等で3つ（国立感染症研究所等の機関）あり、協定のない大学等とともに個々の研究の進捗状況と確認しながら、法人が協力できる点や作業範囲について確認し、新たな共同研究についての検討も行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	継続して共同研究等を実施しているため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も連携協定先との共同研究（サンプル提供含む）を継続的に実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[24] 「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」で定めた重点領域である①動物繁殖生理学領域（種の保存）②動物行動学領域（動物福祉）③その他基礎研究領域（生物多様性）において、連携協定を締結した大学・機関、その他様々な組織と継続的に調査研究へ取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		27		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。		
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。		
	年度計画	ホームページ等で大学等との研究機関との協定による研究実績や、取り組み段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・園HPの充実 ・共同で進めている研究実績などの発表	
		Ⅳ・Ⅴ	・知見を共有したことにより、新たな研究につながったなどの次の展開実績	
D	行動	・新たに令和5年度から複数件の共同研究や研究への協力をはじめた。 ・研究成果については、協定先機関等の許可が得られたものについて当園ホームページ、園内掲示で随時知見の共有を図った。一部成果は、国際シンポジウムで発表され、当園職員が共著者となった研究が国際雑誌に論文が掲載された。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	研究成果を公表したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	研究成果のうち公表可能なものは園ホームページ等で公表しており、動物園が実施している共同研究について一般に広く周知を図っていることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔25〕園内掲示、ホームページ等で共同研究実績や、取り組み段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図るとともに、当園の成果については研究会等で発表する。		

評価シート（個票）

通し番号		28		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。		
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。		
	年度計画	研究の成果については、研究会等において発表を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・研究会等における発表	
		Ⅳ・Ⅴ	・各種賞の受賞 ・複数の異なる職員による研究発表 ・園内およびHPなどでの公表	
D	行動	・発表を行ったのは以下のとおり。 ・また、法人がホストとして開催した「第23回種保存会議」においては発表を行うのみではなく、パネルセッションで法人がファシリテーターとしても活躍した。 ◆発表実績 ・近畿ブロック動物園飼育係研修会 ヤギの行動記録による新施設の運用方法の評価について ・近畿ブロック動物園水族館臨床研究会 持続的高血糖を示すノマウマの治療経過について ・近畿ブロック動物園技術者研究会 ジャガーの環境改善のためのエンリッチメントの評価 ・第23回種保存会議 行動観察とホルモン検査を用いたクロサイの繁殖に向けての取組 （クロサイ種別計画管理者が発表。当園獣医師が共同研究者） ・第32回ゾウ会議 飼育環境の向上と準間接飼育移行に向けた施設改修について ・第33回日本動物園水族館両生類爬虫類会議 ヨウスコウワニの繁殖 ・第71回動物園技術者研究会 カリフォルニアアシカの行動記録に基づく新施設の評価		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	複数職員による複数の発表をしたため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	多数の発表をしており、それが動物園としての地位向上に繋がっているため。
	ヒアリング結果	研究の成果を複数の異なる職員が研究会等で発表するだけでなく、発表に向けて日頃から情報収集に励んでいる。また、他園館に比べ年間の発表件数も多く、発表することが動物園としての地位向上に繋がっていることから、計画以上に取組が進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[25] 園内掲示、ホームページ等で共同研究実績や、取り組み段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図るとともに、当園の成果については研究会等で発表する。		

評価シート（個票）

通し番号		29		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。		
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。		
	年度計画	各種職員研修において法人の目指す姿を共有し定着化を図るとともにホームページでの情報発信の充実を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・各職員への研修の実施 ・ホームページ等での情報発信の充実	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・ホームページでの情報発信 以下のとおり、HPでの発信や内容の更新を行った。 6月 令和4年度業務実績評価の公表 7月 令和4年度年報を公表 SDGsの取り組み、調査研究の内容を更新 8月 法人の規程類を更新（17→20） 9月 理事長及び園長のご挨拶の内容をリニューアル 12月 財務諸表等を公表 ・職員研修での意識の定着化 以下のとおり研修等を実施し、意識の定着化を図った。 5月 新規採用者研修において中期計画をはじめとする法人の目標について説明 6月 新任リーダー研修において、動物園人として目指す姿を説明 10月 係長級以下を対象としたコンプライアンス研修を実施 ・研修内容に令和5年度に起こった不適正事務について考えるグループワークを実施し、法人職員としてのコンプライアンス意識の向上を図った。 ・曖昧になりがちな手続きのルール作りを行った。（出張案件等） 1月 コンプライアンス強化月間を実施し、職員のコンプライアンス意識の定着を図った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	各職員への研修を実施し、ホームページ等で情報発信の充実を図ったため。（評価事例のとおりに）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおりに
	ヒアリング結果	令和5年度も引き続き、法人の目指す姿を法人内で共有し、園ホームページでの情報発信を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[26] 引き続き法人の目指す姿を対外的に発信する。また、法人の目指す姿の実現に向け、職員の意識醸成等に継続的に取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		30		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に即した適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。		
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。		
	年度計画	法人内でのヒアリング等により組織の役職や人員数の改編・補充について点検し、必要に応じて対応する。		
	評価事例	Ⅲ	・点検の継続 ・必要に応じた組織改編・人員補充	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・令和6年度の体制について各課ヒアリングを5月に実施し、6月より派遣職員の人数について大阪市との協議を進めた。 ・8月に業務執行体制案ができた後、採用募集活動を進め、10月～2月にかけて採用試験を行い、適切に職員採用を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	人員体制についてヒアリングなど点検作業を実施し、採用活動も含め次年度の体制を確立したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	組織体制や人員数に関して、各課へのヒアリングや本市との調整を行った上で、令和6年度の職員募集を遅滞なく実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[27] 法人の組織体制（外部の専門人材登用を含む）について検討し、随時採用をはじめ柔軟に対応する。		

評価シート（個票）

通し番号		31		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に即した適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。		
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。		
	年度計画	各種業務の実施にあたり、外部の専門人材登用が必要かどうかを検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・各種業務の実施に伴う外部の専門人材の検討実施及び実施効果の検証	
		Ⅳ・Ⅴ	・専門人材登用による効果の発現	
D	行動	・令和4年度の実績等について5月に各課長へのヒアリングを行い、同時に実績及び今後の外部人材登用について各課あて照会を行った。 ・ヒアリングの結果を踏まえ、都度検討を行い、ノウハウを蓄積した。 ◆令和5年度 専門人材登用実績 5件（研修3件、ネーミングライツ関係1件、アドバイザー契約1件） 求めていた以上の内容で、職員からも高評価だったと評価しており、令和6年度についても継続して実施したいと考えている。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	各種業務の実施に伴う外部の専門人材について計画どおり検討を進めたため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人内で令和4年度の実績や今後の専門人材登用に関するヒアリング・照会を実施し、人材登用の要否を検討した上で、適切な人材を選定し、登用していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔27〕 法人の組織体制（外部の専門人材登用を含む）について検討し、随時採用をはじめ柔軟に対応する。		

評価シート（個票）

通し番号		32		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会 及び 世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。））に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	人材育成方針及び計画に基づき各種人事業務を実施するとともに、必要に応じて方針及び計画を修正する。		
	評価事例	Ⅲ	・昨年度策定した方針及び計画に基づく研修実施 ・方針及び計画の必要の応じた見直し	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・人材育成方針及び計画に基づき、各種人事業務を実施した。 ・5月に各課長にヒアリングを行い、人材育成方針での令和5年度研修計画について、進捗を確認し修正した。年度末までに人材育成方針について令和5年度版へと更新した。（令和6年度人事関連方針の追加等を実施した。）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	昨年度策定した方針及び計画に基づき研修を実施し、人事関連方針について適宜見直しを図ったため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	適宜計画の見直しを行いながら、人材育成方針に基づいて人事業務を実施しており、令和6年度に向けて人事育成方針を更新していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔28〕 必要に応じて人材育成方針及び計画の修正、資格取得支援対象資格の追加を行う。		

評価シート（個票）

33

通し番号				
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会 及び 世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。））に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	人材育成方針及び計画に基づき研修を実施するとともにアンケート、効果、業界で求められるスキルを踏まえ研修計画を随時見直す。		
	評価事例	Ⅲ	・計画的な研修の実施 ・計画の見直し	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・人材育成方針及び計画に基づき研修を実施し、アンケートを通じて効果、業界で求められるスキルを踏まえ、研修計画を随時見直した。 ◆実施研修 4月 勤怠システム研修（新規採用者・管理監督者向け）を実施 5月 新規採用者研修にて、中期計画をはじめとする法人の目標について説明 6月 新任リーダー研修を行い、動物園人として目指す姿を説明 10月 係長級以下を対象としたコンプライアンス研修・情報セキュリティ研修・契約事務研修を実施 ※研修内容に令和5年度に起こった不適正事務について考えるグループワークを実施し、法人職員としてのコンプライアンス意識の向上を目指した。 11月 服務研修を実施 ※旅費規程や各種届出について研修を実施し、事前申請の徹底について説明を行い、不適正事務の防止を目指した。 12月 コンプライアンス研修（管理職向け）を実施 ※当法人の具体事案を振り返り、管理職として留意すべき視点について研修を行った。 12月 動物園学研修を実施 2～3月 ホスピタリティマインド醸成研修を実施 ・都度実施しているアンケートにおいて「今後活用・応用できる」と回答した職員が8割以上であり、おおむね好評であった。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	計画的に研修を実施でき、新しい研修についても検討するなど現状を反映し修正したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	計画に基づき、具体事案やグループワークを活用しながら、職員に対して適切に研修を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[29] 人材育成方針及び計画に基づき研修を実施する。多様化、複雑化に伴い内容が相互に関連、重複する研修については類型化のうえ体系的に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		34		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会 及び 世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。））に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	資格取得支援の仕組みを浸透させ、必要に応じて支援対象資格を追加する。		
	評価事例	Ⅲ	・資格取得支援の仕組みの定着・必要に応じた支援対象資格の追加	
		Ⅳ・Ⅴ	・資格に挑戦する職員の増 ・多数の資格取得者	
D	行動	・当該制度の定着を目的とした職員周知については、新規採用者を対象にオリエンテーションにおいて資格取得制度について案内したほか、適宜職員に周知した。制度の対象となる飼育技師試験については5名が受験した。 ・新たな資格メニューの取得申請があった際は、適宜業務とのかかわりを踏まえた検討を行った。 ◆制度利用者 R4 8名（うち合格者等5名） 准認定ファンドレイザー 2名合格（2名受験） 飼育技師（一般）3名合格（4名受験） 飼育技師（上級）1名合格（2名受験） R5 7名（うち合格者等5名） 准認定ファンドレイザー（資格保持にかかる研修受講） 1名受講 衛生管理者 0名合格（1名受験） 飼育技師（一般）3名合格（3名受験） 飼育技師（上級）1名合格（2名受験）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	資格取得支援の仕組みを定着させ、新たな資格メニューの取得申請があれば都度業務とのかかわりを踏まえ検討したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	当該制度（令和3年度策定）が職員に定着することを目的に、法人内で周知を行い、適宜新たな資格メニューの追加も検討している。さらに、令和4年度と同数程度の制度利用者がいたことから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔28〕 必要に応じて人材育成方針及び計画の修正、資格取得支援対象資格の追加を行う。		

評価シート（個票）

通し番号		35		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(2) 職員の能力向上と意欲喚起 インセンティブが適正に働く人事評価制度を確立することにより、勤務意欲を高め、職員個人の能力及び組織力の向上を図る。		
P	中期計画	第2-2-(2) 職員の能力向上と意欲喚起 法人設立当初に策定した評価制度の定期的な効果検証を行い必要に応じて見直しが行なわれる仕組みを構築する。		
	年度計画	人事評価制度を運用するとともに、制度内容を検証のうえ、必要に応じて制度を見直す。		
	評価事例	Ⅲ	・人事評価制度の運用 ・必要に応じた見直し	
		Ⅳ・Ⅴ	・職員にインセンティブが働く評価制度の構築	
D	行動	・法人における人事評価制度について、職員へのインセンティブを反映できる制度とすべく、7月に令和4年度人事評価制度実施結果を検証し、相対評価の可否の検討を行った。 ・8月に職員を対象にアンケートを実施し、9月に評価基準の明確化にかかる自己評価シート（案）を作成し、10月に制度検討（相対評価の可否、評価基準の明確化等）および制度設計を実施した。 ・その上で11月までに法人内で意思決定をし、組合と協議し、関連規程改正案を立て理事会承認まで完了させた。 ◆新制度の概要 ・相対評価制度は変えず、職種・ポストごとで評価を実施。（法人独自） - また、相対評価割合を大阪市と同様に見直す。 ・現行の人事評価シートに加え、自らの行動のたな卸しすることを目的に、職種ごとで自己評価シートを作成。（令和6年度より本格実施）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	人事評価制度を適切に運用し、インセンティブを反映できる制度を構築するための調整を進めたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	人事評価制度を着実に運用している。さらに、現行の制度を職員へのインセンティブを反映できる形に見直し、令和6年度から本格実施ができるよう調整を進めていることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[30] 令和5年度に改正した評価制度の内容について検証を実施するとともに、よりインセンティブが働く評価制度の構築に向けて検討、実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		36		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-3-(1) PDCAサイクルの確立 評価委員会の見解に基づき本市が評価基準を作成し、その評価基準を動物園経営のPDCAサイクルに組み込み効果的・効率的な業務執行に努める。		
P	中期計画	第2-3-(1) PDCAサイクルの確立 法人設立初年度は、評価の対象となる年度計画の各項目毎に適切に進捗管理が実施できるような仕組みを構築し、日常業務の履行が評価基準の達成に自然と結びつくよう取り組みを行う。さらに、達成状況を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。		
	年度計画	年度計画および中期計画の進捗状況を定期的に市と共有し意見交換を行い、必要に応じて中期計画の変更を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・進捗管理シートによる進捗状況の確認及び市との共有 ・必要に応じた中期計画の変更	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・令和5年度計画の進捗について定期的に管理監督者へのヒアリングを実施し、市とも共有し意見交換を行った。 ・9月に上半期実績をもとに各課長へのヒアリングを実施し、11月に年度計画の進捗状況の詳細について、市に対して説明を行った。 ・12月に中間自己評価を行い、その内容を市と共有した。1月に令和5年度年度計画の実績見込みを踏まえ、令和6年度計画の策定に当たり市と意見交換を行った。 ・また、中期計画については、現状に合わせて、第3回の変更を市に申請した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	進捗管理シートによる進捗状況の確認及び市との共有を定期的に行い、必要に応じて中期計画の変更を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	進捗管理シートを用いて、年度計画の進捗状況を本市と共有し、上半期終了後に中間評価を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[31] 年度計画及び中期計画の進捗状況について定期的に市と確認する。		

評価シート（個票）

通し番号		37		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-3-(2) ICTの導入及び活用 ICTを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。		
P	中期計画	第2-3-(2) ICTの導入及び活用 事務効率化の観点から人事財務部門へのICTの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、ICTの導入と日常的な活用に取り組む。		
	年度計画	引き続き、人事財務分野において導入した各種機器の安定運用を図るとともに、担当者変更等に伴う引継ぎを着実に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・導入しているシステムの安定運用	
		Ⅳ・Ⅴ	・新たなシステム導入	
D	行動	・勤怠システムについて、新規採用者向け勤怠システム研修を実施し、研修資料については各課に周知・指導を行った結果、安定的に運用することができた。 ・また、文書管理システムの導入についても検討を行った結果、導入を見送った。（令和5年度未導入）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	導入しているシステムについて安定的に運用したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	新規採用者向けの研修を実施し、研修資料の職員への周知を行ったことにより、勤怠システムを安定的に運用することを確認できたことから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔32〕 人事財務システムの安定運用を図るため、操作マニュアルの更なる充実を進めるとともに、必要に応じてバージョンアップや新たなシステム導入を検討する。		

評価シート（個票）

通し番号		38		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-3-(2) ICTの導入及び活用 ICTを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。		
P	中期計画	第2-3-(2) ICTの導入及び活用 事務効率化の観点から人事財務部門へのICTの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、ICTの導入と日常的な活用に取り組む。		
	年度計画	昨年度の日常飼育・トレーニング分野における電子カルテへの統合運用が困難となったため、原因課題を整理し、手法を変えて診療記録と飼育記録のプラットフォームを構築する。		
	評価事例	Ⅲ	・診療記録と飼育記録のプラットフォームの構築	
		Ⅳ・Ⅴ	・プラットフォームの現場での運用	
D	行動	・全ての飼育班の日誌の電子化を開始し、7班中4班は全ての日誌を電子へ移行した。 ・電子カルテの情報については、データ化できていない部分のデータ化（統合）に令和4年度より引き続き取り組んだ。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	電子カルテから方法を変更し、診療記録と飼育記録のプラットフォームを構築できたため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	診療記録と飼育記録が同時閲覧できるプラットフォームの構築や、全ての飼育班の日誌の電子化が開始していることから、計画どおり進捗していると評価できる。 今後は残りの日誌の電子化が完了し、全ての班において安定した運用を継続してほしい。		
A	次年度の年度計画	なし ※項目削除による		

評価シート（個票）

通し番号		39		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	入園料収入4.8億円・入園者数174万人を目標とする。（令和5年度予算）		
	評価事例	Ⅲ	・目標値の達成（コロナによる影響は別途検証）	
		Ⅳ・Ⅴ	・目標値を大幅に上回る場合	
D	行動	・ナイトズーでのイベント充実として、夏のナイトズー関連企画としてトークカフェを企画・実施した。また、ナイトズーについては動物園ポスターを数種類作成し、園外に掲示しPRした。 ・新規施設オープンに際しては、より多く来園していただけるような仕掛けを検討し、鳥のセカイのオープンに向けて、除幕式を企画した。また、新施設（ペンギンパーク&アシカワーフ、鳥のセカイ、仮設チンパンジー舎）のみならず、既存施設も含め、天王寺動物園広報誌（なきごえ・トゥギャザー）および建設局公園緑化部広報紙「ひふみ」での魅力発信を行った。 ・令和6年度以降のナイトズーの開催時期については、検討を進め集客を見込める時期に変更した。 ◆令和5年度入園者数：1,714,317人（対前年度比+317,954人） ・ご家族連れ等個人での来園者（大・幼・小・中）増加 +211,174人（R5:1,332,536 R4:1,121,362） ・周遊パス利用者の増加 +78,549人（R5:111,002人 R4:32,453人） ◆令和5年度入園料収入：5.1億円（対前年度比+1億円）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	目標の174万人に届かなかったものの、入園料収入は目標を上回ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	入園者数の目標値には達しなかったものの、令和4年度の入園者数（1,396,363人）の約1.2倍を記録しており、入園料収入については目標額を達成できたことから、Ⅲ評価に値すると判断した。		
A	次年度の年度計画	[33] 入園料収入5.9億円・入園者数206万人を目標とする。（令和6年度予算）		

評価シート（個票）

40

通し番号																																											
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。																																									
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。																																									
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。																																									
	年度計画	継続してファンクラブ募集に取り組み、会費収入額を前年度比1.2倍を目標とする。																																									
	評価事例	Ⅲ	・ 会費収入額が前年度比1.2倍																																								
		Ⅳ・Ⅴ	・ 目標とする会費収入を大幅に上回る ・ 加入者数の大幅な増加																																								
D	行動	・ 特典内容を既製品（園内売店）から非売品のオリジナルグッズ（サコッシュ、カレンダー）へ変更し、会員限定イベントの実施（新施設内覧会、イベントファンクラブ枠）、制度の周知方法を再検討、ファンクラブプチの周知を強化（①園内・園外ポスターの増加、②ゲートにPOP設置、③園内テーブルベンチにPOP追加、④SNS等での発信回数の増加）、会員限定イベント（バックヤードツアー）の実施および新コースの設定、ナイトゾーンでファンクラブプチに限定特典（缶バッジ）の追加、ジャガーの小春の公開時やホッキョクグマの日に合わせたプチの限定特典（缶バッジ）の追加など計画に即して施策を講じた結果、ファンクラブ収入額の実績額対昨年度比については以下のとおりとなった。 ◆ファンクラブ収入額比較表 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">R4</th> <th rowspan="2">R5</th> <th rowspan="2">前年度比</th> <th colspan="2">リピート率</th> </tr> <tr> <th>R4→R5</th> <th>（参考）R3→R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレミアム</td> <td>4,101,000</td> <td>4,914,000</td> <td>119.8%</td> <td>83.0%（346/417件）</td> <td>76.6%（252/329件）</td> </tr> <tr> <td>スマート</td> <td>207,000</td> <td>265,000</td> <td>128.0%</td> <td>64.3%（45/70件）</td> <td>69.5%（41/59件）</td> </tr> <tr> <td>プチ</td> <td>2,192,500</td> <td>1,587,500</td> <td>72.4%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>法人</td> <td>3,500,000</td> <td>4,100,000</td> <td>117.1%</td> <td>96.6%（57/59件）</td> <td>92.0%（46/50件）</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10,000,500</td> <td>10,866,500</td> <td>108.7%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・ 令和5年度より特典を変更したプチ（缶バッジ→カード）が減収しているが、特典の魅力が今後広まる可能性もあるので、検証しながら継続することとしている。					R4	R5	前年度比	リピート率		R4→R5	（参考）R3→R4	プレミアム	4,101,000	4,914,000	119.8%	83.0%（346/417件）	76.6%（252/329件）	スマート	207,000	265,000	128.0%	64.3%（45/70件）	69.5%（41/59件）	プチ	2,192,500	1,587,500	72.4%			法人	3,500,000	4,100,000	117.1%	96.6%（57/59件）	92.0%（46/50件）	合計	10,000,500	10,866,500	108.7%		
			R4	R5	前年度比					リピート率																																	
R4→R5	（参考）R3→R4																																										
プレミアム	4,101,000	4,914,000	119.8%	83.0%（346/417件）	76.6%（252/329件）																																						
スマート	207,000	265,000	128.0%	64.3%（45/70件）	69.5%（41/59件）																																						
プチ	2,192,500	1,587,500	72.4%																																								
法人	3,500,000	4,100,000	117.1%	96.6%（57/59件）	92.0%（46/50件）																																						
合計	10,000,500	10,866,500	108.7%																																								
C	法人の自己評価	Ⅱ	評価理由	会費収入額が前年比1.1倍であるため。																																							
	市の評価	Ⅱ	評価理由	法人評価のとおりに																																							
	ヒアリング結果	令和4年度に比べて新規加入者やリピート率は増加しており、前年度初めて達成した会費収入額1,000万円を維持しているという成果は法人の努力無しでは決して得られないものであり、一定評価できる。しかし、残念ながら目標数値には届いておらず計画どおりとは言えないことから、Ⅱ評価とした。加入者数の増加に向けて引き続き分析を行うなど今後に期待したい。																																									
A	次年度の年度計画	[5] 継続してファンクラブ募集に取り組み、前年度を超える会員数を目標とする。																																									

評価シート（個票）

通し番号		41		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	前回クラウドファンディングの検証を踏まえ、次期クラウドファンディングのメニューおよび実施時期を検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・次期クラウドファンディングのメニューおよび実施時期の検討	
		Ⅳ・Ⅴ	・次期クラウドファンディングの実施	
D	行動	・前回クラウドファンディング（令和4年3～5月実施）の際、少人数での実施体制に問題があったことや、注目が集まりにくかったことなどを踏まえ、PTを立ち上げたうえで次期クラウドファンディングのメニューおよび実施時期について検討した。 ◆検討内容 ・対象とする動物（前回のカメが支援者の目をひいたかどうか） ・リターンの内容（前回の返礼処理の職員負担と期間長期化） ・周辺企業依頼先（前回事前に訪問依頼することができなかった） など ・その結果、より人気が高く幅広い世代が関心を持てる動物を対象にすることや、人気のリターンメニューと職員負担のバランスの再考、事前の営業期間確保などを踏まえ、次期新獣舎竣工などインパクトのあるタイミングに合わせることで、令和5年度での実施は見送った。 ・令和6年度での実施とし、引き続き効果的な実施に向けて検討を進める。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	クラウドファンディングのメニューおよび実施時期の検討を行ったため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	前回の実施内容を検証し、次期クラウドファンディング時の課題や検討内容を整理していることから、計画どおり進捗していると評価できる。令和6年度の実施に向けて、目的達成に繋がる効果的な実施内容を引き続き検討してほしい。		
A	次年度の年度計画	[34] 令和4年度に実施したクラウドファンディングで培ったノウハウを生かし、2回目のクラウドファンディングを実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		42		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	営業実績（令和4年度）の検証を踏まえた営業計画（令和5年度）に基づき営業を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・営業計画（R5）に基づいた営業による寄附の獲得	
		Ⅳ・Ⅴ	・予算を大幅に上回る寄附実績（物品含む）・寄附者数の大幅な増 ・新たなファンドレイジング手法の実施	
D	行動	・令和4年度の営業では訪問での営業の効果が高かったことを踏まえ、営業計画（令和5年度）について課内での検討を進め、営業戦略（令和5年度）を策定した。 ・策定した営業戦略に基づき、令和6年度に実施予定のクラウドファンディング並びに従来継続していただいているご寄附について、今後も継続いただけるよう、特に大口寄附法人に対し、営業用物品等を準備した上で、営業活動を実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	営業による寄附の獲得を実現したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和4年度の実績の検証から、令和5年度も引き続き法人ファンクラブの維持に主眼を置いた取組を行っており、営業計画に基づいた寄附を獲得できている。以上のことから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[35] これまでの営業実績の検証を踏まえた「天王寺動物園における渉外営業戦略」に基づき渉外営業を実施し、入園料外収入の確保に努める。		

評価シート（個票）

通し番号		43		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	寄附額25百万円（クラウドファンディングを除く）を目標とする。（令和5年度予算）		
	評価事例	Ⅲ	・ 寄付額25百万円（令和5年度予算）以上の獲得	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 目標額を大幅に上回り、かつ獲得プロセスとの因果関係が明確な場合	
D	行動	・ 顕彰方法や返礼品について検討し、高額寄附者への返礼品を追加した。 ・ 営業計画に基づき営業を実施した。（12月） ・ 寄附の事例や使途をホームページ等に掲載し随時更新した。 ・ 時期に合わせて随時広報を実施した。 ・ 遺贈について複数の金融機関と協議し、遺贈寄附の手続きの締結できないか詳細について引き続き検討したが、協定の締結には至らなかった。「ご寄附・遺贈のごあんない」（チラシ）は1金融機関に設置いただいた。 ・ ファンクラブプレミアム会員特典のバックヤードツアーにて参加者に寄附のチラシを配布するなど積極的に寄附制度について周知し、バックヤードツアー参加者からの個人寄附増につながった。 ◆寄附額 令和4年度 21,691,048円 令和5年度 27,349,826円		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	寄附額が増加したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	寄附獲得に向けて、営業計画に基づき営業を実施し、寄附制度の周知方法を工夫した結果、目標額を上回る成果を上げていることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[36] 寄附額12百万円（ファンクラブ、クラウドファンディングを除く）を達成する。		

評価シート（個票）

通し番号		44		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	例年実績と同等のオリジナルグッズの開発・販売、予算の達成（令和5年度予算 7百万円）		
	評価事例	Ⅲ	・予算の達成	
		Ⅳ・Ⅴ	・新たなオリジナルグッズ販売により入園料外収入が予算を大幅に上回る場合	
D	行動	・新たなオリジナルグッズとして職員の意見収集、お客様満足度アンケートにグッズに関する意見を求める項目を追加し開発に努めた。 ・「お客様満足度アンケート」に記載されるご意見を近鉄リテリングへ情報提供した。近鉄不動産から申請されるオリジナルグッズについてもより良いものを販売できるように継続的に確認し、法人の意見を反映させた。 ◆令和5年度新規オリジナルグッズ：13種類 歩合収入19,830,147円（うちG00Z00歩合：7,410,390円）		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	新規オリジナルグッズを開発し、また、有料入園者数の増により予算以上の大幅な売り上げを達成したため。
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	オリジナルグッズの新規開発数が令和3・4年度に比べて増加しており、また売店歩合収入額も予算の約2.8倍、令和4年度実績（14,076,826円）の約1.4倍と大幅に上回っていることから、計画以上に取組が進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[37] 園内事業者と連携しながらオリジナルグッズの開発と販売促進を行い、売上目標額22百万円を達成する。		

評価シート（個票）

通し番号		45		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。		
P	中期計画	第3-2 経費の節減 日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。		
	年度計画	今年度オープンするペンギンアシカ舎における水道・電気の使用量について、当初想定している使用量と実際の使用量とを比較し、適切な運用に向け検証する。		
	評価事例	Ⅲ	・水道・電気使用量の検証	
		Ⅳ・Ⅴ	・検証による使用量の削減に向けた取組	
D	行動	・毎月、子メーターにより水道使用量を把握し、漏水の疑いが無いことを確認した。 ・4月にオープンしたペンギンパーク・アシカワーフの上半期の水道使用量は、当初想定 の年間使用量の2分の1を超過していたことから、施設全体において啓発による節水を実 施した。その結果、7月の水道料金が見込みより約500万円減となった。8月以降も継続し て節水でき、R5予算比若干増に抑えた。 ・また、上半期に実施したペンギンパーク・アシカワーフの水の入替方法の改善による 節水を継続的に実施し、年間使用量を当初想定約3倍（上半期時点）から約2.5倍に抑え ることができた。 ・なお、設備上の改善策検討のため、水道使用量の削減に向けたマーケット・サウン ディングを実施した。その結果、近年の資材費や人件費の高騰により経費削減が難しく、 リニューアル工事と並行して掘削工事等を進めることも困難であるなどの課題が判 明し、別の改善策を引続き検討していくこととなった。 ◆ペンギンパーク・アシカワーフ水道使用量 76,028㎡（R5.4～R6.3）／当初想定：31,260㎡ 【参考】水道使用量（全体）R5：240,440㎡（R6.3まで）／R4：234,010㎡ 電気使用量（高圧）R5：3,560,289kWh（R6.3まで）／R4：3,388,006kWh		
C	法人の 自己評価	Ⅲ	評価理由	水道使用量の検証を実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング 結果	子メーターによる水道使用量の把握により、当該獣舎の上半期時点の使用量が予想を 大幅に超過する見込みであることが分かったが、飼育環境に影響がない範囲での節水や 水道使用量の削減に向けたマーケット・サウンディングを実施していることから、計画 どおり進捗していると評価できる。今後も各使用量を注視しながら、経費の削減に繋げ るよう引き続き取り組んでほしい。		
A	次年度の 年度計画	〔38〕・ごみの排出量削減及びペーパーレス化に取り組む。 ・水道・電気使用量について、前年度（令和5年度）と比較・検証を行い、使用量節減 の方策（新オープン施設を除く既存施設での効率化等）を検討・実施する。		

評価シート（個票）

46

通し番号		46										
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。										
		第4-2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。										
P	中期計画	第3-2 経費の節減 日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。										
	年度計画	法人での獣舎整備が、大阪市直営時代で整備した場合と比べて1割のコスト縮減を図る。										
	評価事例	Ⅲ	・ 獣舎整備の1割のコスト縮減									
Ⅳ・Ⅴ		・ 予算増額を伴わないスペックの向上										
D	行動	・ 令和5年度の新たな獣舎整備の発注実績はないが、第1期リニューアル整備事業については、当初契約としては大阪市直営時代と比較して約1割縮減していることを確認した。 <table><tr><td></td><td>合計（税込）</td></tr><tr><td>法人（一括契約）</td><td>4,315,295,600</td></tr><tr><td>大阪市（分割契約）</td><td>4,782,800,000</td></tr><tr><td>削減率</td><td>90.2%</td></tr></table> ・ 一括発注と比べて分割発注ではコスト高となることから、採用した発注形式（建築一括発注による設計施工一括発注方式）に関するメリット・デメリットを整理した。				合計（税込）	法人（一括契約）	4,315,295,600	大阪市（分割契約）	4,782,800,000	削減率	90.2%
	合計（税込）											
法人（一括契約）	4,315,295,600											
大阪市（分割契約）	4,782,800,000											
削減率	90.2%											
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	当初契約として約1割のコスト縮減を図ったため（評価事例のとおり）								
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり								
	ヒアリング結果	法人発注の当初契約額が、本市直営時代と比較して約1割縮減していることが確認できたことから、計画どおり進捗していると評価できる。 今後も中期計画で定める予定額内での整備ができるよう、コスト管理を徹底して実施してほしい。										
A	次年度の年度計画	〔39〕第一期リニューアル整備事業にかかる整備費（物価上昇や地中障害対策等の外部影響を除く）について、中期計画で定める予定額（6,460百万円）内での整備を目指し、内容や仕様の見直し等によりコストを縮減する。										

評価シート（個票）

通し番号		47		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築		
P	中期計画	第8-2-(4)-① 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直しが可能な仕組みを構築する。		
	年度計画	内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 内部統制体制に関する定期的な検証	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 検証の結果を踏まえた改善実績	
D	行動	・ 職員の事務的な誤りの発生を受けて、内部統制強化のためコンプライアンス研修の充実を図った。実施した施策は次のとおりである。 5月 情報発表前の不適切な情報発信が発生したため、内部統制委員会を開催し、再発防止策を策定 10月 係長級以下を対象としたコンプライアンス研修を実施 ※独法設立以降の事例をテーマとしたグループワークを行い、再発防止策を考えることで、コンプライアンス意識の向上を図った。 12月 課長及び課長代理級職員を対象とした管理職向けのコンプライアンス研修を実施 1月 コンプライアンス強化月間として、チェックシートでコンプライアンス意識のセルフチェックを実施		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	内部統制体制に関する定期的な検証活動として内部統制委員会を開催し、コンプライアンス研修、コンプライアンス強化月間などを実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	問題発生時において適切に対処し、再発防止策を策定し、職員への研修を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔40〕 内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。		

評価シート（個票）

通し番号		48		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築		
P	中期計画	第8-2-(4)-① 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直し可能な仕組みを構築する。		
	年度計画	リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・リスク管理の継続実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・リスク発生の未然防止の実績	
D	行動	・リスク管理計画に基づいて、第1回～第5回リスク管理委員会を開催しリスク管理を着実に実施した。3月に第5回リスク管理委員会を開催し、令和6年度のリスク管理計画を策定した。 ・令和5年度リスク管理計画の中で、リスク評価「高」としていた「動物脱出」が10月に発生したため、第1回～第4回のリスク管理委員会で発生状況の振り返り、対応における反省点の洗い出し、再発防止策の策定を以下の通り行った。 第1回：リスク管理の範囲外に潜在する課題の集約を提起 第2回：チンパンジー逸走事案を踏まえた課題の洗い出し 第3回：課題に対する対策案とその実施スケジュールの作成 第4回：報告書の作成と対策案の更なる洗い出し、マニュアルの改正等の進捗状況の確認		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	リスク管理委員会を適宜開催し、リスクを継続して管理したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	リスク管理規程に基づき、適切にリスク管理の取組を行っているほか、10月に起きたチンパンジーの逸走事故を受けて、課題の洗い出しや対策案の検討なども実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[41] リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		49		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用		
P	中期計画	第8-2-(4)-② 法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用 法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。		
	年度計画	規程類について、新規採用者及び転入異動職員に研修する。（上半期）		
	評価事例	Ⅲ	・新規採用者及び転入異動職員への研修の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・研修内容や対象者の拡大	
D	行動	・規程類について、新規採用者及び転入異動職員を対象に研修した。実施した施策は以下のとおりである。 4月 新規採用者に対しオリエンテーションを実施 5月 新規採用者研修（法人規程・動物福祉倫理規定）を実施 転入異動者についても情報共有を行った。 10月 係長級以下の全職員を対象にコンプライアンス研修、情報セキュリティ研修、契約事務研修を実施 11月 係長級以下の全職員を対象に服務研修を実施 1月 人事評価制度研修、人事評価制度の改正及び定年延長制度の改正に関する研修を実施		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	新規採用者及び転入異動職員への研修を実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	新規採用者に対するオリエンテーションや研修を通じて、法人運営に関する諸規程の周知を図り、異動職員に対しても各種研修を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[42] 諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則など）については、全職員を対象とした研修を定期的実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		50		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用		
P	中期計画	第8-2-(4)-② 法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用 法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。		
	年度計画	諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し若しくは新たに整備するなどの対応を行う。（下半期）		
	評価事例	Ⅲ	・ 諸規程類の運用状況の確認と必要に応じた新規整備	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・ 諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直しとともに、必要なものは新たに整備した。 ◆改正もしくは新規整備した規程類 ・ 給与規程改正（R5.4） ・ 保有個人情報管理規程改正（R5.4） ・ 特殊勤務手当支給規程改正（R5.5） ・ 役職名変更に伴う各種規程改正（R5.8） ・ 障がい者を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領制定（R5.8） ・ 防犯カメラ設置規則制定（R5.9） ・ 懲戒等審査委員会運営要領改正（R5.10） ・ 令和6年能登半島地震見舞金用金庫管理運用要領制定（R6.1） ・ 金庫室及び防犯カメラ管理運用規則改正（R6.1） ・ 金庫管理運用規則改正（R6.1）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	諸規程類の運用状況を確認し、改正および新規整備を行ったため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年間を通して、適宜諸規程の見直しを行なったうえで、改正及び新規整備していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[42] 諸規程について必要に応じて見直しや整備を行うとともに、特に重要な規程（就業規則、職員倫理規程、契約規則など）については、全職員を対象とした研修を定期的実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		51		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(3) コンプライアンスの周知徹底		
P	中期計画	第8-2-(4)-③ コンプライアンスの周知徹底 法令順守に加えて、独立行政法人の職員として社会（来園者）の要請に応える行動は何かを理解する。		
	年度計画	コンプライアンス浸透のため、従来の研修のほか強化月間を設けるなど新たな取組を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・新たな取組の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・コンプライアンス研修にグループワークを取り入れ、内容の強化を図るとともに、コンプライアンス強化月間の取組内容を検討し、実施した。 ・10月に実施した係長級以下の全職員を対象としたコンプライアンス研修では、コンプライアンス意識についてのアンケートを実施し、その結果に基づいてテーマを決定し、1月をコンプライアンス強化月間と定め、意識の強化に向けた取り組みを実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	コンプライアンス研修の他に新たな取組としてコンプライアンス強化月間を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も係長級以下に対する研修を継続的に実施するだけでなく、新たな取組として強化月間を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[43] コンプライアンス意識の浸透のため、研修のほか強化月間などの取り組みを継続して実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		52		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(4) 個人情報等の保護		
P	中期計画	第8-2-(4)-④ 個人情報等の保護 個人情報等の保護に関する法律に基づいて整備した法人の個人情報保護規定を職員全員が十分に理解・運用できている状態とする。		
	年度計画	個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・研修の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・個人情報等の保護に関する法律および市条例の改正を受けて、法人の保有個人情報管理規程について改正を行った。そして、規程の改正内容だけでなく、重要管理ポイントについても各課に周知した。 ・また、コンプライアンス研修においても個人情報取扱事務および重要管理ポイントについて職員に管理の重要性を説明し、周知した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	重要管理ポイントを策定し、順守されているか点検を実施し、研修も実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	保有個人情報管理規程に基づき、事務ごとに策定している重要管理ポイントを改正し、職員への周知徹底を行っていることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔44〕個人情報取扱事務に関する重要管理ポイントが着実に浸透するよう、研修等で周知を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		53		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施		
P	中期計画	第8-2-(4)-⑤ 内部監査及び監事監査の適切な実施 内部監査により定期的に内部統制環境の有効性をモニタリングするとともに、監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。		
	年度計画	内部監査・監事監査を実施するとともに、前年度の改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。		
	評価事例	Ⅲ	・内部監査・監事監査の実施 ・随時監査の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・内部監査・監事監査を定期監査として実施した。随時監査に至るほどの重大不正はなかったため、随時監査は実施しなかった。 ◆監査テーマ ＜内部監査＞ ・業務委託業務 ・施設使用料・貸借料等徴収業務 ・第1期リニューアル工事（令和4年度実績分） ・令和4年度内部監査指摘事項に対する対応状況（契約事務） ＜監事監査＞ ・役員・講演者等への報酬支払 ・第1期リニューアル工事請負業者への支払 ・決算書類の監査		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	内部監査および監事監査を実施したため。 （評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も内部監査・監事監査を継続的に実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[45] 内部監査・監事監査を実施するとともに、改善措置や不適正な事案等の発生を受けた再発防止策が講じられているかを随時監査において確認する。		

評価シート（個票）

通し番号		54		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(6) ネットワークセキュリティの強化		
P	中期計画	第8-2-(4)-⑥ ネットワークセキュリティの強化 個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を徹底する。		
	年度計画	セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を検証のうえ、必要に応じて改訂を行うとともに、設立団体並みの研修を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・必要に応じたマニュアルの改訂および研修の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・研修内容の充実（設立団体以上）	
D	行動	・情報セキュリティについての研修を全職員に対して行い、脅威について周知した。 ・令和5年度はマニュアル等の改訂に至る水準のインシデントは発生しなかったため、マニュアル等の改訂は行っていない。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	情報セキュリティ研修を実施したため。 （評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も全職員に対する研修を継続的に実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[46] セキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を適宜検証のうえ改定を行うとともに、設立団体である大阪市と同等の研修を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		55		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	今年度、設計若しくは工事を実施する全ての案件において、設計上・工事施工上の観点から来園者及び職員の安全対策に配慮する。		
	評価事例	Ⅲ	・設計・工事の法令順守および来園者・職員の安全対策の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・工事手順の工夫等による効率的な安全対策の実施	
D	行動	・設計・工事受注者の提案による安全対策を継続して的確に実施し、更なる安全対策として、北園の工事車両出入口について、工事車両と職員の交錯の無い位置に変更した。 ・設計・工事の法令順守はもとより、技術提案および更なる安全対策の実施により、工事車両と来園者・職員・工事関係者の事故は発生しておらず、安全に関するクレームも特になかった。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	設計・工事の法令順守および来園者・職員の安全対策を実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅱ	評価理由	令和5年度完成の獣舎において飼育動物の逸走事故が発生し、来園者の安全を脅かしたため。
	ヒアリング結果	現在施工中の工事において、工事車両と職員が接触しないよう動線を変更するなど適宜安全対策を実施している一方で、逸走事故が発生させ、来園者を避難させる必要が生じた。来園者だけでなく市民の安全にも関わることなので、今後は部署間の連携を強化し、来園者及び職員、工事関係者の安全確保に努めてほしい。		
A	次年度の年度計画	〔47〕大規模かつ長期間にわたる工事が継続することから、来園者及び職員の安全対策に配慮する。		

評価シート（個票）

通し番号		56		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。		
	評価事例	Ⅲ	・定期点検の着実な実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・点検結果を施設の適切な維持管理に反映させる仕組みの構築	
D	行動	・職員による年2回の獣舎点検を実施した。また、包括管理事業者による日常点検および定期点検を着実に実施し、適時適切に確認を行った。 ・点検結果を踏まえ軽微な故障箇所については、包括管理事業者から速やかに修繕案および見積を提出をさせ、各担当と調整のうえ改善を適時適切に実施した。 ・重大な故障箇所の確認実績はなかったが、12月に高圧電気ケーブルの突発的な絶縁不良による地絡故障（漏電）が発生し、一部エリアの停電が発生した。11月の包括管理事業者による定期点検で問題は無く更新年数内に発生した事故でもあり、予見できる状況ではなかったが、約10日間停電したため、復旧期間短縮に向けた改善策を検討した。 ◆令和5年12月8日に発生した停電について ① 絶縁不良が生じた原因 ・園内に敷設している高圧電気ケーブルの突発的な絶縁不良による地絡故障（漏電）が発生したことによるもの。 ② 点検の状況 ・令和5年11月6日に実施した年次点検では、地絡故障（漏電）につながる絶縁不良に関する点検項目は合格しており、特段の異常は無く、今回の事故を予見できる状況ではなかった。 ③ 更新年数の目安 ・当該高圧電気ケーブルは1998年製であり、25年経過したもの。 ・（一社）日本電線工業会において、水の影響がある敷設状況の場合は、更新推奨年数を15年と示されているが、大阪市都市整備局発行の「施設カルテ整備・運用マニュアル」においては、一般的な更新年数の目安として30年が示されており、その更新年数内に発生した事故である。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	各種点検を着実に実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も職員による獣舎点検及び包括管理事業者による各種点検を着実に実施しており、事故発生時には復旧期間を短縮する等の改善策の検討を速やかに講じていることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[48] 来園者と職員の安全確保及び安定した園運営の観点から、獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。		

評価シート（個票）

通し番号		57		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	天王寺消防署協力のもと、より質の高い災害訓練を実施する。猛獣脱出訓練についてはより実態に即した設定を構築し、より効果的な訓練を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・消防署と連携した災害訓練の実施 ・効果的な猛獣脱出訓練の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・防災訓練については、4月に自主消防組織体制および動員計画表を現状に合わせて更新し各課に周知した。その体制に基づき、5月に業務委託事業者も含め、消火訓練および救急救命についての講習会を実施した。 ・また、11月に天王寺消防署立ち合い・指導の下、本部機能をメインとした震災発生時の初動訓練および園内状況のシミュレーションを含めたDIG訓練及び安否確認システム応答訓練を実施した。この初動訓練ではチンパンジー逸走事故の際に課題となった大阪市をはじめ関係各所への迅速な連絡体制の構築についても強化すべく、大阪市（建設局動物園支援担当）をはじめ関係各所への連絡訓練及び情報共有も行った。 ・猛獣脱出訓練については、実施時期について検討を重ねる中で、より効果的な訓練として、専門家による座学研修を候補として設定し、講師としてJAZA安全対策委員長で京都市動物園園長の坂本英房氏を迎え、全職員を対象に実施した。研修は10月に発生したチンパンジー逸走事故の振り返りも踏まえ、他園館の対策事例についても学んだ。また、研修と訓練の実施サイクルおよび担当についても検討し、訓練と座学（もしくは検証）を毎年度交互に実施する方針を固めた。 ・令和5年10月のチンパンジー逸走事故を受け、猛獣脱出防止対策マニュアルおよび災害対策マニュアルを改定し、訓練・研修時に全体に周知した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	チンパンジー逸走事故を受け、より実態に即した設定を構築し、より効果的な訓練を実施したため。
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	逸走事故の際に見えてきた課題を反映した、より効果的な訓練を実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。 また、逸走事故発生時の園内対応（来園者の避難誘導等）を迅速に実施できていた点は、これまでの訓練の成果が現れた部分でもあると考えられるので、引き続き工夫しながら訓練を実施してほしい。		
A	次年度の年度計画	〔49〕・引き続き初動訓練に重きを置いた災害訓練を実施する。特に勤務時間外の発災を想定した訓練を実施する。 ・猛獣脱出対策訓練については、事前に職員には周知せず、シナリオのないブラインド訓練を実施する。また、あらたに想定される複数の動物逸走について机上訓練を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		58		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	委託事業者と協力のうえ、引き続き新型コロナウイルスに関する大阪府の方針に基づいた感染対策を講じる。		
	評価事例	Ⅲ	・委託事業者と協力した感染症対策の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・大阪府の方針に基づき、園内の手指消毒液の設置継続など、必要かつ可能な範囲で対策を講じるとともに、飼育専門職員、獣医師の新型コロナウイルス感染時の特別休暇付与を継続するなど動物園の特性に即した対策を講じた。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	委託事業者と協力した感染症対策を実施したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も引き続き府の方針に基づいて新型コロナウイルス感染症対策を適切に実施しており、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	なし ※項目削除による		

評価シート（個票）

通し番号		59		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-3 職員の安全衛生管理 職員が安全かつ快適な労働環境で業務に従事できるよう、安全対策の徹底と事故防止に努める。 また、職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。		
P	中期計画	第8-2-(6) 職員の安全衛生管理 労働安全衛生法等に基づいた安全衛生管理体制に加え、職員の健康保持促進のための取組を進めるとともに、職員へ周知徹底する。		
	年度計画	安全衛生管理体制の確立と職員の健康保持のための取組を進めるとともに健診等を着実に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・安全衛生管理体制の確立と健診等の着実な実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・健康診断や必要な予防接種、健康講座などを着実に実施し、安全衛生委員会について毎月1回（基本第3火曜日）のペースで実施した。 ・また、安全衛生委員会の開催内容にかかる議事について、職員あてに周知した。実施した施策は次のとおりである。 4月 産業医・衛生管理者の選任 ※令和4年度から引き続いて選任 破傷風予防接種実施対象者調査 5月 破傷風予防接種実施業者決定 ハラスメント相談窓口の設定・周知 6月 健康診断実施業者決定 ストレスチェック実施業者決定 6月～9月 破傷風予防接種実施 7月～8月 健康診断・特殊健康診断実施（1回目） 9月～10月 健康講座実施 9月～翌3月 健康診断事後措置 10月～翌3月 ストレスチェック実施 翌2月～翌3月 健康診断・特殊健康診断実施（2回目）※獣医師のみ		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	安全衛生管理委員会を適宜開催し、健診、ストレスチェック、健康講座を着実に実施したため。 （評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	職員の安全衛生管理について、令和5年度も引き続き、安全衛生委員会や健康診断等を着実に実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔50〕安全衛生管理体制を確立するとともに、健診等も含め職員の健康保持のための取組を進める。		

評価シート（個票）

通し番号		60		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-4 環境に配慮した取組の推進 環境への負荷を低減するため、天王寺動物園内及び事務所内において環境に配慮した取組を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(7) 環境に配慮した取組の推進 WAZA（世界動物園水族館協会）の持続可能戦略で示されたSDGsへの貢献に向け、環境に配慮した取組を推進する。		
	年度計画	SDGsに関する園内での取組を拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取組を進める。		
	評価事例	Ⅲ	・SDGsの園内での取組拡充及び企業等との協働	
		Ⅳ・Ⅴ	・取組内容の拡充実績	
D	行動	・Team Expoの共創事業の一環として各種イベントを共同で開催し、令和4年度に開始した園内でのペットボトルのキャップ回収を継続して行った。 ・また、古くなったユニフォームのアップサイクルや食品ロス削減目的での飼料（レタス等）の継続的な受け入れ、検品漏れの運動具の受け入れ及び動物の環境エンリッチメントとしての活用なども行った。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	ユニフォームのアップサイクル、企業等と協働したイベントや食品ロス削減、廃棄木材の削減などSDGsの取組内容を拡充したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和4年度から継続している取組だけでなく、外部機関や民間企業との協働により新たな取組を複数実施していることから、計画以上に取組が進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[51] SDGsに関する園内での取り組みを拡充するとともに、企業等と協働しSDGsの取り組みを進める。		

評価シート（個票）

通し番号		61		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-5 情報公開の推進 法人の運営状況について透明性を確保するため、毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(8) 情報公開の推進 情報公開を推進し、運営状況の透明性を高めることで、法人の活動への理解及び信頼を得る。 また、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報も、積極的に公表する。		
	年度計画	業務に関する年報（Annual Report）を公表する。		
	評価事例	Ⅲ	・年報の公表	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・令和4年度の年報を作成し、法人ホームページで公表した上、営業用に製本し、寄附実績のある民間企業等に配布した。また、財務諸表等をホームページ上で公表した。年報については、新施設の写真を多用する、コラムを掲載するなど、法人の活動に理解と親近感を得やすい構成とした。 ・さらに、令和5年度年報のコンテンツについて検討を進めた。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	年報をはじめ財務諸表等をホームページ上で公表したため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も引き続き前年度の年報を作成・公表するとともに、令和6年度年報の公表に向けて着実に準備を進めていることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	[52] 法人に対する理解を深めてもらうよう、財務諸表や年報をはじめとする法人情報等の情報公開を推進する。		

評価シート（個票）

通し番号		62		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-6 BCPの策定 地震や台風等大規模な自然災害の発生や新興感染症の流行等によるリスクを最小限とするため、BCP（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。		
P	中期計画	第8-2-(9) BCPの策定 地震、台風など自然災害及び新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザなどの新興感染時による対応をあらかじめ定めることで来園者・職員の安全を確保する。		
	年度計画	BCPの検討を一層進めるとともにその内容を法人内で共有する。		
	評価事例	Ⅲ	・BCPの検討の推進及び法人内共有	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	・BCP検討会議を実施し、BCPの改正について検討した。また、BCPに関して法人内で意識の浸透が図れるよう、災害対策マニュアルとともに周知した。また、職員の安否確認システムについて必要に応じて更新し、意識定着を目的として応答訓練を11月に実施した。 ・また、11月に発生した停電について原因と対策についてもBCP検討会議で検討した。11月の停電の原因については地中に埋設していたケーブルの想定外の破損であり、今後の予防措置などは難しいという判断に至ったが、事業継続の観点から例えば地上に設置するための代替ケーブルを事前に入入しておく等の検討がされた。また、大規模震災による各獣舎の倒壊リスクを想定するため、獣舎ごとの耐震基準、築年数を基にしたリスク評価を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	BCP検討会議を開催し検討を進めるとともに法人内での共有を行ったため。（評価事例のとおり）
	市の評価	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	令和5年度も引き続きBCP検討会議を実施し、法人内での意識定着に向けた情報共有を図ることができている。また、新たな課題への検討も着実に実施していることから、計画どおり進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	〔53〕 前年度（令和5年度）に発生した動物逸走や停電事案を踏まえ、BCPの改定を行う。		